



水・緑・風が輝く
豊かな暮らしと産業で
飛躍するまち"香南市"

第2次香南市振興計画前期基本計画 実施状況報告書

(計画期間：平成29年度～令和3年度)

令和3年9月

香 南 市

～ 目 次 ～

1. 実施状況報告書について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 「まちづくり指標」による施策の評価について・・・・・・・・	1
3. 振興計画の体系と評価の対象について・・・・・・・・	2
4. 前期基本計画の施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・	3
5. 施策評価シートの見方・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第1章 協働のまちづくり（3施策）・・・・・・・・	7
第2章 産業振興（7施策）・・・・・・・・	10
第3章 人生支援（5施策）・・・・・・・・	22
第4章 都市基盤（3施策）・・・・・・・・	31
第5章 教育文化（8施策）・・・・・・・・	34
第6章 防 災（4施策）・・・・・・・・	46

1. 実施状況報告書について

第2次香南市振興計画は、香南市のあるべき姿とそれを実現するための考え方や方向を示した計画であり、平成29年度から令和8年度までの10年間にわたるまちづくりの基本的な指針となるものです。

また、10年間の計画期間のうち、令和3年度までの5年間の計画期間とした前期基本計画を策定し、各施策の効果的な推進を図っています。

この「実施状況報告書」は、令和2年度の1年間の取り組みをまとめたものです。

【振興計画の構成と期間】

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
基本構想	10年									
基本計画	【前期】5年					【後期】5年				

2. 「まちづくり指標」による施策の評価について

前期基本計画では、施策の進捗状況および成果を把握するため、それぞれの基本施策に対して「現状の数値」と「目指す目標値」を示した、「まちづくり指標」を設定しています。

【まちづくり指標のねらい】

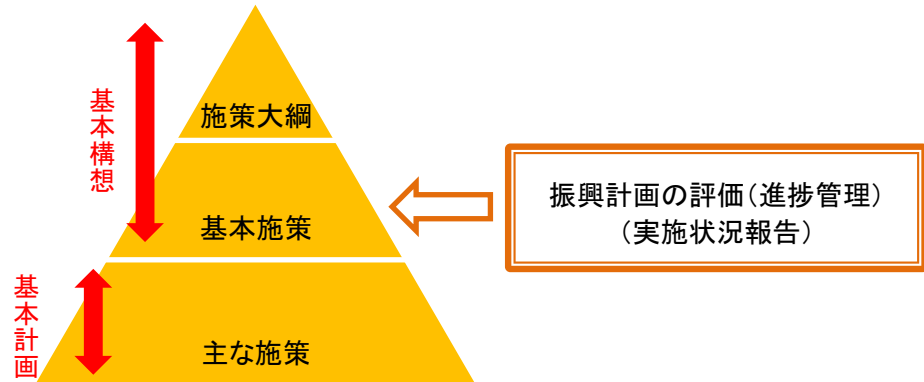


- 効率的に計画を進める
まちづくり指標の数値目標については、Plan（計画）－Do（実施）－Check（評価）－Action（改善行動）の視点により、施策の評価・改善を図るとともに、成果を確認していき、効率的に計画を進めます。
- 成果を確認し、施策の評価を行う。
取り組んだ成果を確認し、基本計画の総合的な評価を行います。

また、基本施策の評価にあたっては「まちづくり指標」の評価とあわせて、「基本施策を構成するその他のまちづくり指標」の評価を勘案し、「成果と課題」を明らかにした上で、総合的に評価を行います。

3. 振興計画の体系と評価の対象について

第2次香南市振興計画前期基本計画では、将来都市像を「水・緑・風が輝く 豊かな暮らしと産業で 飛躍するまち“香南市”」と定めています。この将来都市像を実現するために6つの施策大綱を掲げ、大綱の下には30の基本施策、128の主な施策を位置づけ、振興計画の体系を構築しています。



施策評価の対象は、第2次香南市振興計画の基本施策（30 施策）とします。

基本施策 30施策

施策大綱		通しNo	基本施策	通しNo	主な施策
第一章	協働のまちづくり	1	協働のまちづくりの推進	1	住民との情報交換の推進
		2	健全な行財政の運営	2	地域活動の推進
				3	行財政健全化の推進
3	人権尊重のまちづくりの推進	4	広域行政の推進		
第二章	産業振興	4	農業の振興	5	人権に関する意識啓発の推進
				6	多文化共生の推進
				7	農業生産基盤の充実
				8	防災への対策
				9	担い手対策の促進
				10	農産物のブランド化の推進と加工品の開発
				11	消費者の安心安全志向への対応
		5	林業の振興	12	農地の保全と活用の促進
				13	有害鳥獣被害対策
				14	林業生産基盤の充実
		6	水産業の振興	15	森林の多面的な利活用の促進
				16	森林の活用
				17	水産機能施設の整備
				18	漁港施設の整備
				19	新規漁業就業者の育成・支援
				20	漁場の保全
		7	商工業の振興	21	漁業者の所得向上
				22	観光漁業の推進
				23	水産加工品流通販売の推進
24	企業誘致の促進				
25	既存企業の育成・支援				
26	魅力のある商業地・商店街づくり				
27	空き店舗の活用				
28	新規企業の育成・支援				
29	新たな観光拠点の整備				

4. 前期基本計画の施策体系

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策
第一章	協働のまちづくり	1	協働のまちづくりの推進	1	住民との情報交換の推進
				2	地域活動の推進
		2	健全な行財政の運営	3	行財政健全化の推進
				4	広域行政の推進
		3	人権尊重のまちづくりの推進	5	人権に関する意識啓発の推進
				6	多文化共生の推進
第二章	産業振興	4	農業の振興	7	農業生産基盤の充実
				8	防災への対策
				9	担い手対策の促進
				10	農産物のブランド化の推進と加工品の開発
				11	消費者の安心安全志向への対応
				12	農地の保全と活用の促進
				13	有害鳥獣被害対策
		5	林業の振興	14	林業生産基盤の充実
				15	森林の多面的な利活用の促進
				16	森林の活用
		6	水産業の振興	17	水産機能施設の整備
				18	漁港施設の整備
				19	新規漁業就業者の育成・支援
				20	漁場の保全
				21	漁業者の所得向上
				22	観光漁業の推進
				23	水産加工品流通販売の推進
		7	商工業の振興	24	企業誘致の促進
				25	既存企業の育成・支援
				26	魅力のある商業地・商店街づくり
				27	空き店舗の活用
				28	新規企業の育成・支援
		8	観光の振興	29	新たな観光拠点の整備
				30	観光拠点の強化
				31	歴史を中心とした博覧会の開催
				32	観光施設間の連携
				33	地域に親しむ観光の促進
				34	物部川地域3市での観光振興
				35	活性化に向けたあらゆる産業との連携の強化
				36	おもてなしの向上
				37	外国人観光客の受け入れ体制づくり
		9	住宅関連産業の振興及び定住環境の充実	38	住環境の整備
				39	市営住宅の整備
				40	南海トラフ地震への備え
				41	老朽化した住宅等の除去
				42	移住者向け住宅の確保と促進
		10	分野を超えた連携	43	6次産業化による地産地消・外商の推進
				44	観光クラスターの整備
				45	産業人材の育成・確保

施策大綱	通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策
第三章	人生支援	11 幼年期の支援の推進	46	妊産婦の安心で安全な環境づくりの推進
			47	親と子の心と体の健康づくり
			48	子どもと子育て家庭に優しい環境づくり
			49	質の高い保育・教育の推進
			50	すべての子どもの成長を保障する環境づくり
		12 就学期の支援の推進	51	豊かな人間形成を育む環境づくり
			52	子ども・親・家庭に優しい環境づくり
			53	親と子の心と体の健康づくり
			54	学校と地域の連携による教育環境づくり
			55	すべての子どもの成長を保障する環境づくり
		13 成年期の支援の推進	56	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進
			57	出会い・新しい家庭づくり支援の推進
	58		親と子ども・働く環境との両立支援の推進	
	59		生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援	
	60		配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援	
	61		移住者ウエルカム支援の推進	
	14 熟年期の支援の推進	62	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進	
		63	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援	
		64	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援	
	15 高齢期の支援の推進	65	健康で長生きできる環境づくりの推進	
		66	世代間交流を楽しみ生活文化の伝承ができる地域社会づくりの推進	
67		親・子・孫で支える地域社会づくりの推進		
68		配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援		
69		地域で支えあいがあり、香南市に住んで良かったと思える環境づくりの推進		
第四章	都市基盤	16 公園・緑地と景観形成、環境保全の整備	70	自然的土地利用と都市的土地利用の推進
			71	緑豊かな都市空間の創出
	17 水資源等活用保全の推進	72	治水・利水整備の促進	
		73	生活関連水の処理の整備	
	18 交通網体系の整備	74	道路網の整備	
75		公共交通の充実		
第五章	教育文化	19 保幼小中連携の推進	76	保幼小中連携（一貫）教育の推進
		20 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）	77	厳しい環境にある子どもたちへの支援
			78	学校の組織マネジメント力の強化
			79	不登校の改善
			80	子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築
			81	家庭の教育力の向上
			82	放課後の子どもの生活・学習支援の充実
		21 これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	83	就学前教育の充実
			84	確かな学力の育成
85	豊かな心の育成			
			86	キャリア教育の推進

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策		
第五章	教育文化	21	これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	87	人権教育の推進		
				88	健やかな体の育成と健康の増進		
				89	特別支援教育の推進		
		22	きめ細かな教育の推進	90	教職員の専門性・指導力の向上		
				91	保育所・学校運営の充実		
				92	生徒指導の充実		
				93	教育相談・支援体制の充実		
		23	安全な教育環境での教育の推進	94	防災教育等の推進		
				95	保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備		
		24	生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり	96	ライフステージに対応した学習の充実 (家庭教育・学校教育・社会教育)		
				97	生きがいを得る学習機会の充実		
				98	現代的課題に対応した学習機会の充実		
				99	学習施設の整備		
				100	地域に密着した学習の場の提供		
				101	生涯学習推進組織の整備		
				102	情報提供・相談機能の強化		
				103	指導者の育成・人材活用		
				104	生涯学習を通じての地域づくり		
				105	全ての人と共生する生涯学習の推進		
		25	文化の継承と振興	106	芸術・文化活動の推進		
				107	郷土の歴史・文化遺産の保存と継承		
		26	生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興	108	生涯スポーツ・競技スポーツの推進		
				109	スポーツ環境の充実		
				110	スポーツ指導員の育成・人材活用		
		第六章	防災	27	災害に強いまちづくりの推進	111	津波・高潮の被害軽減対策
						112	水害・土砂災害予防対策
						113	地震動に強いまちづくり
						114	孤立化防止対策の推進
115	ライフラインの安全対策の強化						
28	地域防災力の育成			116	防災知識の普及		
				117	自主防災体制の整備		
				118	災害時要配慮者の支援対策		
				119	ボランティアの環境整備		
29	防災体制の強化			120	応急活動体制の整備		
				121	情報通信システムの強化		
				122	火災予防対策の推進		
				123	災害時医療救護体制の整備		
				124	緊急輸送体制の整備		
30	市民生活の確保			125	避難対策の推進		
				126	食料・飲料水・生活必需品の確保		
				127	保健衛生・防疫体制の確保		
				128	ごみ・がれき、し尿の処理体制の確保		

5. 施策評価シートの見方

第2次香南市振興計画 基本施策評価シート(令和〇〇年度)											シートNo.				
施策大綱名											} ← 第2次振興計画前期基本計画の体系です。				
基本施策名	評価対象となる基本施策(取組)です。														
① 施策の基本目標															
第2次振興計画前期基本計画に掲げている基本施策の基本目標です。															
② 基本施策の「まちづくり指標」_振興計画基本計画掲載指標															
体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)			
	第2次振興計画前期基本計画に掲げている施策の基本目標の成果等を測定するための指標(まちづくり指標)です。施策により、指標数は異なります。		目標	第2次振興計画前期基本計画に掲げている施策のまちづくり指標の計画策定時の当初値と目標値、計画期間中の実績値です。							目標との比較です。	まちづくり指標の達成状況です。R3年度に評価します。			
		実績													
		目標													
		実績													
↑ 矢印(→)で評価します。															
③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」															
体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)			
	施策の基本目標を構成する、その他の指標について記載しています。		目標												
		実績													
		目標													
		実績													
			目標												
			実績												
④ 128の施策ごとの「成果と課題」															
No. 施策名称															
まちづくり指標による定量的な評価等を踏まえ、上記施策に対しての成果と課題等を記載しています。															
No. 施策名称															
⑤ 基本施策の「総合的評価」															
評価結果				評価所見											
上記の成果と課題を踏まえ、多角的な分析等で右記の3段階評価をしています。				《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない				評価結果の所見を記載しています。							

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	1. 協働のまちづくりの推進

①施策の基本目標

まちづくりにおいて、市民と行政と一緒に考え、取り組むための体制づくりを推進し、市民との情報共有を図り、各地域との懇談会など、市民と行政のコミュニケーションを図ります。
 多様化する生活課題に密着した地域活動が行えるよう、自治会や協議会等の活動支援に努めます。
 また、香南市まちづくり評議会を開催し、市民と行政が「協働」で地域課題を解決する仕組みづくりに取り組みます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
2	自治会組織の結成率	%	目標		89.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	81.0	86.0	90.0	90.0	91.0	91.0			
2	協議会の結成率	%	目標		63.0	68.0	73.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	58.0			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
1	地区懇談会の開催回数(種類)	回	目標		1	1	2	2	2	2	→	
			実績	1	1	1	2	2	2			
1	地区懇談会の参加者数(延)	人	目標		350	355	360	360	360	360	↘	
			実績	348	325	263	293	164	126			
2	協議会組織の設立数	組織(累)	目標		12	13	14	19	19	19	↘	
			実績	10	10	10	10	10	11			
2	自治会組織の設立数	組織(累)	目標		87	93	95	95	95	95	↘	
			実績	79	83	86	85	86	86			
2	集落活動センター設置数	箇所(累)	目標		1	2	2	2	2	2	→	
			実績	1	1	1	1	1	2			
2	地域活動団体の育成数	団体	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	2	2	0	0	0	1			

④128の施策ごとの「成果と課題」

1 住民との情報交換の推進	<p>市が進める重点施策及び教育分野における重点取組などについて説明し、地域のことや行政全般に関して参加者の皆さんと意見交換を行う地区別懇談会を本年度も実施した。</p> <p>「日程が合わない」「説明が長く意見交換の時間が短い」などの課題を受けて、これまで市内18カ所で開催していた地区懇談会の開催方法を平成30年度から見直し、本年度も行政主体(地区懇談会)と地域主体(ふらっと座談会)の2種類で実施した。</p> <p>行政主体の地区別懇談会については、10月・11月に5町5ヶ所で開催し、市民111人の参加があった。令和2年度は1地区で土曜日開催を行ったことで、多くの参加者が集まった。今後もまちづくり協議会と相談のうえ、日程調整を行い、多くの方に来ていただけるよう開催する。地域主体のふらっと座談会については、新型コロナウイルス感染症の影響により地域からの要望も少なく、1カ所(夜須町)での開催となり、15人の参加があった。</p>
2 地域活動の推進	<p>市内全域での自治会・協議会の設立を目指し取り組んでおり、11協議会、86自治会が設立済み(令和2年度末)である。</p> <p>自治会は、全部で95組織を目標としているが、令和2年度に新たな自治会の結成には至らず目標には達していない。</p> <p>協議会においては、新たに赤岡町まちづくり協議会が設立となった。引き続き、組織の設立を最優先に取り組んでいきたい。また、新規の設立支援だけでなく既存組織への支援を行っていくことも重要である。</p> <p>集落活動センターについては、令和元年度に岸本地区において集落活動センター設立を目指した準備会を立ち上げ、協議を重ね、令和2年6月に岸本地区集落活動センターが設立された。</p> <p>地域活動の推進について、団体の育成に向けた取組を行っている。令和2年度は8月24・25日にコロナ禍のなか子ども達の笑顔のために、かとり神社の夏祭りボランティアサークルがドライブスルーで夏祭りを実施し、補助金を活用した。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>協議会については令和2年度に新たに設立されたが、自治会については新たな結成には至らず、ともに目標には達していない。引き続き地域に出向き、組織の必要性を説明し結成に向けて働きかけることが重要である。</p> <p>また、地区懇談会については、課題を受けて内容の充実(見直し)を行い、行政主体の懇談会と行政が出向いての地域主催の懇談会を開催しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加者の増加には繋がらなかった。</p>

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	2. 健全な行財政の運営

①施策の基本目標

自立した財政基盤の確立をめざし、安定した健全な財政運営を行うため、中長期的な見通しを立て、事業の重点化を図りながら、諸施策を進めます。
 行政改革の着実な推進、職員の政策立案能力などの資質向上を図るとともに、行政事務の効率化や情報化を含め、市民サービスの一層の向上と信頼される行政組織づくりに努めます。
 また、まちづくりをより効果的に推進するために、関係市町村との調整を行い、広域的な施策を推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
3	実質公債費比率	%	目標	/	11.7	11.8	11.0	10.5	10.8	12.0	↗	
			実績	11.1	10.0	8.7	7.0	5.3	4.6			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
4	広域行政の運営	組合	目標	/	5	5	5	5	5	5	→	
			実績	5	5	5	5	5	5			
4	大学との連携事業 (学生参加人数)	人	目標	/	150	150	150				-	
			実績	168	373	240	118					

④128の施策ごとの「成果と課題」

3 行財政健全化の推進
<p>令和2年度の比率(平成30年度～令和2年度の3か年平均値)は、4.6%で、令和元年度に比べ、0.7%減少した。主な要因は、前年度までに実施した継続的な繰上償還の影響などにより、令和2年度の比率(単年度)が、平成29年度の比率(単年度)に比べて1.99ポイント改善した事などである。</p> <p>* 実質公債費率・・・自治体の借入金(地方債)の返済額の大きさを、当該自治体の財政規模に対する割合(3カ年の平均値)で表したもので、その数値が低いほど財政状況は良好とされ、18%以上になると、地方債の発行に国・都道府県の許可が必要になる。</p>
4 広域行政の推進
<p>一部事務組合、広域連合や広域市町村圏などにおいて運営している広域行政については、関係市町村などの調整を行い、効果的・効率的に業務を行った。(香南斎場・香南香美衛生組合・南国香美香南租税債権管理機構・香南清掃組合・香南香美老人ホーム)</p> <p>また、平成27年度から高知大学地域協働学部と連携し、西川地区集落活動センターでの活動を通じた学びの場の提供を行ってきた。平成30年度連携事業期間が終了となったが、連携期間中は多くの学生が、学びの場として参加し地域との協働が図れた。教育拠点の連携に関連して、高知県山田高等学校kami愛部(ラブ)の学生が企画・主催するサイクルイベントをNPO法人高知Cycling project Maze-Cleと共催で実施、高知県山田高等学校が地域が抱える課題について市長へまちづくり提言を行う「高校生まちづくり提言」を開催など、協働した取り組みを行っている。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>令和2年度の実質公債費比率は令和元年度より減少しており、目標を達成している。 広域行政の推進では、効果的・効率的に業務を行っており、連携して取り組むことができている。</p>

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	3. 人権尊重のまちづくりの推進

①施策の基本目標

市民に人権尊重の理念を広げるため、「香南市人権教育・啓発推進基本計画」・「男女共同参画基本計画」に基づき、人権尊重のまちづくりを推進していきます。
 また、人権啓発フェスティバル等のイベントや施策を関係各課が実施し、市民及び市人権教育研究協議会などと連携を図りながら、学校・職場・地域社会などの場を通して、効果的な教育・啓発活動を進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
5	人権講演会への参加者数 (3講演会)	人	目標		700	710	720	730	740	750	-	
			実績	692	420	845	644	665	-			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
5	人権教育・啓発推進講座修了率(市職員対象)	%	目標		89.0	90.0	91.0	92.0	93.0	93.0	-	
			実績	88.0	92.6	92.4	91.8					
5	人権教育・啓発推進講座修了率(市職員対象)	%	目標					65.0	68.0	70.0	↘	
			実績					66.7	65.7			
5	企業などに対する研修会の実施回数	回	目標		2	2	2	2	2	2	-	
			実績	2	2	2	2	1	-			
6	ALTや外国人とのイベント回数	回	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	5	2	3	1	0	1			

④128の施策ごとの「成果と課題」

5 人権に関する意識啓発の推進
<p>人権講演会への参加者数については、3講演会の参加者を指標としている。「部落差別をなくする運動」強調旬間、いきいきセミナー、人権フェスティバルについて、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていない。今後、コロナ禍のなかで感染防止対策を行い事業を継続していく。市職員対象の人権教育・啓発推進講座修了率については、令和元年度より受講対象者や課題の設定を見直したため新たな目標値を設定し、人権教育・啓発推進講座を実施した。</p> <p>また、香南市企業等人権問題連絡協議会で情報通信の発行に取り組むとともに、総会後の研修を含む自主研修会を2回実施していたが、本年度は新型コロナ感染症の影響により開催していない。コロナ禍においても、感染防止対策を行い、市内の企業や団体等を対象に、障害者雇用の現状や障害のある方が地域で暮らしていくうえでの社会的障壁の解消、合理的配慮の提供等について理解を深めるため、研修会を実施し、啓発活動を進める。</p>
6 多文化共生の推進
<p>国際理解を深める教育・啓発を推進するために、ALTや外国人とのイベントを実施している。</p> <p>外国人とのイベント交流として、多文化共生講座、『フィリピンを通して多文化社会を考える』と題して香南市に在住しているフィリピン出身の方、高知県出身のフィリピン海外協力隊の方を講師に迎え、日本、フィリピンの生活の文化の違いなどについて話をし交流を深めた。令和4年度には、地域住民との交流を目的とした、外国人で日本語を学びたい方を対象に日本語教室を開催する。それまでに地域で日本語を教えるボランティアを募集し、ボランティアの養成講座を実施する。</p> <p>また、ALTとの交流については、イベントの開催はできなかったが、各学校での外国語指導や児童生徒との交流は図られている。</p> <p>学校においては、各小中学校に週に1～5日ALTを配置し、勉強や遊びを通じて国際理解を深めている。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>人権教育・啓発推進講座(市職員対象)の参加者数はおおむね計画通りであったが、人権講演会や企業などに対する研修会が中止となっており、実績がない指標がみられた。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて事業の実施や、広報・呼びかけを行っていく必要がある。</p> <p>外国人のイベントの開催については、1回実施し、交流を図っているが、目標回数には至っておらず、今後目標回数の企画等、参加者が関心を持って人権学習ができるよう取り組む。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	4. 農業の振興

①施策の基本目標

農業の振興を図るため、農産物の品質を高め、生産量の増加及び農業者の所得向上をめざし、基盤整備の強化を図ります。また、新たな担い手の確保と地域の中核となる農業者等の育成や中山間資源を活かした商品開発、販路拡大の支援、集落営農の推進に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
9	新規就農者数 (59人は平成29年度からの累計) (上段:累計、下段:単年)	人	目標	/	10	12 (12)	24 (12)	39 (15)	49 (10)	59 (10)	↘	
			実績	17	14	7 (7)	16 (9)	25 (9)	35 (10)			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
7	農業基盤整備の整備率 (H28-29_農業基盤整備促進事業) (H30_農地耕作条件改善事業)	%	目標	/	30.0	40.0	14.0	14.0	60.0	100.0	↘	
			実績	21.9	30.2	30.2	14.6	23.0	49.0			
8	重油流出防止タンクの設置 (タンク・防油堤)	基	目標	/	27	30	30	30	20	20	↘	
			実績	18	21	17	19	9	5			
9	施設園芸ハウス整備面積	㎡	目標	/	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	↘	
			実績	5,592	14,879	20,661	23,132	17,212	10,843			
9	環境制御技術導入農家数	件	目標	/	30	30	30	30	25	25	↘	
			実績	34	33	27	43	16	21			
10	エメラルドメロン販売額	百万円	目標	/	412	425	437	450	450	450	↘	
			実績	406	407	461	446	447	256			
10	ニラ販売額	百万円	目標	/	1,165	1,230	1,295	1,360	1,360	1,360	↘	
			実績	1,100	1,399	1,029	995	1,002	969			
11	学校給食への市内産野菜(主 要品目)の使用率	%	目標	/	37.0	37.0	38.0	39.0	39.0	39.0	↘	
			実績	36.0	31.0	30.0	36.0	34.0	27.0			
11	市内施設への供給先の確保 (米)	箇所 (累)	目標	/	0	0	0	1	1	1	↘	
			実績	0	0	0	0	0	0			
12	中山間地域での協定の締結 数	協定 (累)	目標	/	11	13	13	13	13	13	↘	
			実績	8	11	11	11	11	10			
13	有害鳥獣捕獲数	頭羽	目標	/	614	500	500	500	635	735	↗	
			実績	566	598	742	620	657	837			
13	有害鳥獣被害防止柵の設置 距離	m	目標	/	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	↘	
			実績	8,340	7,539	9,026	9,666	7,378	7,006			

④128の施策ごとの「成果と課題」

7	農業生産基盤の充実	農業基盤整備促進事業を活用し、老朽化した頭首工他の整備(農業生産基盤の充実)を実施してきたが、平成28年度から事業未採択で事業の実施ができていなかった。平成30年度から農地耕作条件改善事業を活用して事業の再開を行い、令和2年度は中ノ村地区農道水路施工と東佐古地区水路改修の2地区での事業を予定どおり実施した。中ノ村地区曾我堰については、年度内の完成はできなかったため、令和3年度に堰及び水路の改修に取り組む。地元関係者と調整を図りながら進め、令和4年度の工事に向けて予定地区を算定していく。
8	防災への対策	重油流出防止タンクの設置により、タンクと防油堤が単独に施行できるようになり、防災への対策が図りやすくなっている。タンク所有者には整備の推進を促す書面を直接送付する等、積極的に周知を行ったが、既存タンクを流出防止付きタンクに変更する際には、個人負担金が発生することから申請数が伸び悩み、令和2年度も目標値には届かなかった。平常時の燃料漏れ対策や南海地震に備えるためにも、各部会に直接参加し事業のPRを推進していく。
9	担い手対策の促進	新規就農者として、Uターン6人、Iターン4人の10人が営農を開始した。新規就農者の状況を把握するため高知県中央東農業振興センターやJA高知県と連携をとり、サポート体制の充実を図ってきたこともあり、新規就農者の数が伸びてきていることに加え、各作物の収量・品質共に上がってきている。しかし、コロナ禍の影響や市場価格の低下で販売額が伸びず、厳しい状況に至る方もいる。引き続き、新規就農者獲得に向け就農支援等について周知を図る。 施設園芸ハウスの整備面積(10,842㎡:中古ハウス3件、新規ハウス3件)、環境制御技術導入農家数については数値目標の達成には至らなかった。環境制御技術高度化事業は次年度に向けての事業要望を取りまとめて、炭酸ガス発生装置・自動開閉装置等のリース導入を行った施設園芸農家に対し、国及び県の補助金に追加して香南市も助成を行うことで収穫量及び販売額の向上を図る。

10 農産物のブランド化の推進と加工品の開発
農産物のエメラルドメロン、ニラについては高知県産業振興計画地域アクションプランに位置づけられブランド化を図ってきたが、エメラルドメロンについては一定ブランド化されたことにより第3期高知県産業振興計画地域アクションプランから未掲載となった。ニラについては継続して位置づけられており、販売額においては新型コロナウイルス感染症の影響によりエメラルドメロンは減少し、ニラについても減少している。今後も農業者やJA高知県香美地区と連携し、一層の販売促進を図っていく。
11 消費者の安心安全志向への対応
安全な食べ物を安心して食べられるために、地域で生産されたものを地域の人たちが消費する「地産地消」の取組として、学校給食で市内産野菜(主要品目)を使用していくよう取り組んでいる。使用率は約27%と目標には至っていない。令和元年度4月よりにんじんの供給を開始したため、今後さらに新たに使用できる品目の計画を立て、学校給食への供給を推進する。また品質及び納品量の安定的な確保、気候に対応した栽培計画及び品質の選定・研究を行い、安心安全な農作物づくりに取り組む。 米の市内公共施設への供給については、平成30年9月から野市保育所に供給を開始している。
12 農地の保全と活用の促進
農業生産条件が不利な地域においても農地の保全と活用が促進できるよう、中山間地域等直接支払事業を活用して事業に取り組んでいる。第5期対策の開始にあたって、各集落協定に対し、継続及び対象農地の見直しを図り10協定を認定した。各集落に出向き説明をしたが、1組織(中山川集落)が継続を断念した。しかしながら、対象面積を増やした集落があり、面積は増加した。現在の10団体の維持についても注力をしていく必要があることから、協議を進めていく。また、人・農地プランにおいて各地区で検討された内容をもとに、新規地区の掘り起こしや対象農地面積の拡大を図っていく。
13 有害鳥獣被害対策
有害鳥獣の捕獲数は総数では目標を大きく上回っている。内訳を見るとイノシシ・シカ等獣類の駆除が多く、カラス等鳥類についての駆除が少ない。今後も、各地区の狩猟者と連携しながら捕獲数を増やしていく。 また、被害防止として防止柵を設置している。農業者から有害鳥獣被害に対する被害の相談があった際に制度の説明及び活用を勧めて事業の活用に繋げ、目標10,000mに対し、7,006mを設置した。今後も窓口等での案内や広報記載等で本事業の周知を図り、事業の活用に繋げていく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
C	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない	担い手対策の事業や生産基盤の整備など、新規就農者確保の取組は積極的に行ってきたが、十分な成果は得られなかった。 農産物(ニラ・エメラルドメロン)のブランド化は図れているが、令和2年度はともに販売額が減少しており、今後も農業者やJA高知県香美地区と連携が重要である。 有害鳥獣対策として、有害鳥獣の捕獲数については目標を大きく上回っているが、防護柵の設置は目標距離の達成には至っていないため、今後も周知を図り活用に繋げていく必要がある。

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	5. 林業の振興

①施策の基本目標

林道・作業道の維持管理と適切な整備に努めるとともに、森林のもつ公益的機能の維持増進や、森林の集約化と経営委任の推進を図ります。
また、公共事業や公共施設での県産材の使用促進、木質バイオマス エネルギーの利用促進と多面的利用の拡大を図り、林業従事者の育成にも努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
15	森林経営計画の作成面積	ha (累)	目標	/	200	100 (300)	100 (400)	150 (550)	150 (700)	150 (850)	↘	
			実績	100	84.4 (184.4)	98.3 (282.7)	22.7 (305.4)	0 (305.4)	50 (355.4)	()		
15	作業道の整備距離	m (累)	目標	/	2,000 (3,880)	2,620 (6,500)	3,500 (10,000)	2,500 (12,500)	2,500 (15,000)	2,500 (17,500)	↘	
			実績	1,880	2,802 (4,682)	1,247 (5,929)	990 (6,919)	152 (7,071)	540 (7,611)	()		
15	搬出・切捨間伐面積	ha (累)	目標	/	10 (30)	50 (80)	90 (170)	80 (250)	0 (250)	0 (250)	↘	
			実績	20	21 (41)	51.4 (92.4)	42.4 (134.8)	1.1 (135.9)	25.5 (161.4)	()		

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
14	林道道路側溝の整備距離	m	目標	/	2,500	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	-	
			実績	1,000	2,500	3,380	中止	1,200	400			
15	森林境界明確化面積	ha (累)	目標	/	100	250	420	600	600	600	↘	
			実績	97.4	97.4	97.4	120.1	146.3	177.2			
16	農業ハウス用ペレットボイラー数	基 (累)	目標	/	2	2	2	譲渡			-	
			実績	2	2	2	2	譲渡				

④128の施策ごとの「成果と課題」

14 林業生産基盤の充実	<p>林業の生産性向上のために林道・作業道の整備は必要不可欠であり、例年林道道路側溝の整備を行っている。 令和2年度は林道道路側溝清掃(2,000m)を予定していたが、城山羽尾線の損傷した舗装の修繕を優先したため400mの実績となり予定には至らなかった。</p>
15 森林の多面的な利活用の促進	<p>森林境界明確化事業において、複数の所有者にまたがる、ひとかたまりの森林の一体的な整備など、計画的・効率的な林業経営を推進している。 森林の管理に関する意向調査を実施した森林について森林境界明確化事業を実施し、令和2年度の実績値は30.9haであった。国の交付金を活用する従来の対応の場合、交付単価が低く、事業自体に赤字が発生するケースが見られたことから、事業の実施が難しい状況であったが、香美森林組合の管内である香美市・南国市と協議し、現状にあった単価を設定し事業を進められた。森林経営計画については、香我美町において、50ha作成した。 また、作業道の整備については、香我美町撫川において540m開設した。搬出・切捨間伐については、搬出間伐は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて木材価格が下落したこともあり、未実施であったが、切捨間伐は25.5ha実施した。</p>
16 森林の活用	<p>化石燃料の代替資源として森林資源を活用した木質バイオマスの普及促進に取り組んでいる。機器が耐用年数に達しているため、令和元年度に予定通り利用者2名へ譲渡も完了した。今後もバイオマスボイラーを活用した農業の活用について情報収集を図っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>森林の多面的な利活用の推進として取り組んでいる、森林経営計画の作成面積や作業道の整備距離の実績値は、昨年度と比べ実績値は増加しているが目標には至っていない。また、森林境界明確化事業についても目標には至っていないが、交付単価が低く、事業の実施が難しい状況であるなかで、香美市・南国市と協議することで、現状にあった単価を設定し事業を進められている。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	6. 水産業の振興

①施策の基本目標

<p>漁港施設・水産機能施設の改修整備・経営基盤の強化を行い、漁業の生産高を伸ばし、漁業収入の向上をめざします。また、地産地消を推進し、香南市ブランドの展開を図ります。</p>
--

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度R3	目標との比較	達成状況(R3に評価)
18	漁港施設の保全、改修整備率	%	目標		23.0	30.0	37.0	43.0	64.0	73.0	↘	
			実績	25.0	19.0	25.0	30.6	36.0	59.0			
21	沿岸漁業総生産量	トン	目標		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	↘	
			実績	1,086	693	839	1,119	1,298	1,182			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度R3	目標との比較	達成状況(R3に評価)
17	水産機能施設の整備件数	件(累)	目標		8	8	10	12	15	18	↗	
			実績	6	11	15	17	20	23			
19	新規就業者(中核漁業者)の確保	人(累)	目標		1	2	3	4	4	4	↘	
			実績	1	1	1	1	1	2			
20	除去地区の海藻類育成被度	%(累)	目標		52.0	58.0	64.0	70.0	70.0	70.0	↘	
			実績	44.0	44.0	52.0	47.0	43.0	28.0			
20	掃海事業の実施回数	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	2	1	1	1	1	1			
21	沿岸漁業生産額	千円	目標		-	-	-	-	285,000	290,000	↗	
			実績	-	-	292,770	358,870	314,870	290,000			
22	地引網漁業経営体の維持(経営体数)	経営体(累)	目標		1	1	1	1	1	1	↘	
			実績	1	1(休業中)	1(休業中)	1(休業中)	1(休業中)	1(休業中)			
23	高知県漁協手結支所の販売額	万円	目標		1,500	3,000	3,000	3,000	5,100	5,200	↘	
			実績	2,299	4,058	4,426	6,328	5,371	4,055			
23	手結加工場の雇用人数(延)	人(累)	目標		2	3	3	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2	2	2			
23	手結加工場による給食センターへの食材納入回数	回	目標		11	11	11	11	22	23	↘	
			実績	19	22	23	22	22	20			
23	水産業に関する体験活動の実施	回	目標		2	2	2	2	2	2	-	
			実績	2	2	4	2	2	-			

④128の施策ごとの「成果と課題」

<p>17 水産機能施設の整備</p> <p>老朽化に伴う各種漁業用施設の改修、整備として、各支所や地区代表の方など漁業関係者の意見を基に事業を実施しており、計画策定時には改修等予定していなかった年度においても、改修等の要望があり事業実施に取り組んでいる。</p> <p>令和2年度においては、吉川水産機能施設(冷凍施設)改修、赤岡水産機能施設(上架施設)改修、吉川水産機能施設(荷捌き所)補修の3件を行い、漁業活動の維持、向上等に取り組んだ。各支所の状況を継続してヒアリングし、漁協と連携し適切な維持管理に努める。</p>
<p>18 漁業施設の整備</p> <p>水産物供給基盤機能保全事業により漁港施設の保全工事を実施している。</p> <p>改修整備率は「実績施設数/計画施設数」で示しており、令和2年度末で計画施設数11施設のうち実績施設数は6.5施設となっている。吉川漁港の航路の土砂堆積による航行障害が発生したため、急遽事業を実施することとなった。今後も定期的に深淺測量を実施し、安全な航行体制の確保に努める。</p> <p>また、予算配分の影響もあるが、機能保全計画に沿った工事を実施し、漁港の適切な維持管理に努める。</p>
<p>19 新規漁業就業者の育成・支援</p> <p>新規漁業就業者の確保については、令和2年度は1人であった。令和2年度の取り組みとして、吉川バッチ網船主会での就業支援制度の説明を実施、(一社)高知県漁業就業支援センターホームページに10月より求人情報を掲載(2経営体:雇用型)している。また、吉川において1名短期研修を実施しており、令和3年1月より「雇用型漁業支援事業」を実施している。複数人で操業する市内漁業形態では1人での就業が難しい状況であり、(一社)高知県漁業就業支援センターと連携をとり、今回初めて実施した雇用型、また漁家子弟での確保を目指す。</p>

20 漁場の保全
<p>漁場生産力の回復を図るために、除去地区の海藻類の育成や掃海事業を実施している。</p> <p>令和2年度の海藻類の育成被度は28%だった。例年より被度が下がったのは、被度対象海藻を見直したためである。天候が安定したこともあり、食害生物(ウニ・魚類)駆除を例年以上に実施することができ、次期に繋げることができた。引き続き、食害生物のウニ・魚類駆除の実施に努め、漁場の保全を図る。</p> <p>掃海事業は例年どおり1回実施。今後も、継続して実施できるように調整を図っていく。</p>
21 漁業者の所得向上
<p>沿岸漁業総生産量は、県漁協3支所の生産量が、令和2年度は前年比91%の1,182tと目標値を下回った。しかし、生産量より生産額の増加が漁業者の所得向上に直接繋がるので、今後は生産額を増加させていくことを主な目標とする。</p> <p>全体生産額(漁獲高)については、290,000千円と目標値を上回った。イワシシラスが年度当初は例年になく漁獲が少なかったが、秋以降増加し例年並みに回復した。今後は商品(通販・持ち帰り可能用品等)を開発、新たな販路を開拓する事業者に対する支援を検討し、市内水産物等の利活用を促進させ、地域の事業者及び産業関連業者の振興及び経営安定を図る。</p> <p>(※平成30年度より吉川漁港漁協水揚げデータに反映されない法人経営の漁獲高を追加)</p>
22 観光漁業の推進
<p>地引き網漁業について、赤岡に1経営体あったが、後継者がいないことから平成28年度より休止の状況になっている。市の観光の中心を担ってきた地引き網の存続に向けた取組を関係機関と行う必要があるが、人員や漁業権の問題もあり、具体的な解決策はまだ見えていない。</p>
23 水産加工品流通販売の推進
<p>高知県漁協手結支所の販売額については前年度より減少し、目標値の達成には至らなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により大口取引先との取引量が大幅に減少していたが、8月頃から回復した。このことから、漁協の市場への影響力がある程度保持され、浜値の下支え機能の維持に繋がっている。給食センターへの食材納入回数は20回であり、概ね目標を達成している。給食の献立もあり、回数を増やすことはなかなか出来ないが、継続して納入するため、引き続き、地産地消推進協議会・教育委員会(給食センター)と連携していく。</p> <p>また、水産業に関する学習活動は、例年赤岡小学校で実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。令和3年度は森田村塾で実施予定である。また、漁業は直接体験できない実情があり、映像で市内漁業の紹介ができる教材を将来的に作成するため関係者と調整を行う。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果</p> <p>(A) 充分成果がでている</p> <p>(B) ある程度成果がでている</p> <p>(C) あまり成果がでていない</p>	<p>漁港施設や水産機能施設の整備に努めており順調に整備は進んでいるが、新規漁業就業者の確保の実績については1人あったものの、目標には至っていない。</p> <p>沿岸漁業総生産量は目標に達していないが、全体生産額(漁獲高)は目標に達しており、漁業者の所得向上を図っている。</p> <p>学校給食への納入も実施しており、令和2年2月よりシラス(かちりじゃこ)の納入を行っている。引き続き地産地消の推進を図る。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	7. 商工業の振興

①施策の基本目標

後継者の育成・市内中核企業等を担う人材確保として、奨学金支援などの施策を展開し、市内企業への就職を促進、市への定着を図ります。
 また、市内企業在職者に対する支援を充実し、必要な知識の習得やスキルアップに努めます。
 地場産業や観光施設との連携により、魅力ある商業地・商店街づくりを促進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
24	新規企業立地件数 (香南工業団地)	件 (累)	目標		3	4	5	5	5	5	→	
			実績	1	3	4	5	5	5			
24	新規雇用者数 (香南工業団地)	人 (累)	目標		87	120	130	160	160	160	↘	
			実績	2	57	61	71	72	114			
25	製造品出荷額等	円/年	目標		500億	500億	500億	500億	500億	500億	↘	
			実績	419億	396億	371億	397億	344億	344億			
25	産業人材支援制度利用者数	件 (累)	目標		5	10	15	20	25	30	↘	
			実績	着手	0	1	2	5	10			
27	空き店舗の新規活用件数	件 (累)	目標		1	1	1	2	2	2	↘	
			実績	0	0	0	1	1	1			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
25	懇談会の実施回数 (既存企業)	回	目標		2	2	2	2	2	2	-	
			実績	2	2	1	1	2	-			
25	企業等訪問回数 (各種助成事業の説明)	人	目標		10	10	10	10	10	10	↗	
			実績	13	12	21	12	11	28			
25	未来人材奨学金支援事業申請件数	件	目標		5	5	5	5	5	5	↘	
			実績	未策定	0	0	0	0	0			
26	コミュニティブックへの掲載店舗数	店	目標		130	130	200	200	200	200	↘	
			実績	130	130	130	175	175	175			
28	懇談会の実施回数 (新規企業)	回	目標		1	1	1	1	1	1	-	
			実績	1	1	1	1	1	-			

④128の施策ごとの「成果と課題」

24 企業誘致の促進	<p>高知県と連携して香南工業団地の分譲交渉を行い、平成30年度に最終の区画も企業誘致(分譲)ができ、全5区画の企業誘致ができた。令和2年度は新規工業団地の整備を行い、今後は新たな工業団地を整備するため候補地の造成基本設計を実施する。 工業団地での新規雇用者については、立地企業と県、市が連携して雇用促進を図っているが、誘致企業の業種や規模の関係もあり総雇用者数が想定していた雇用者数より少なく、目標達成には至っていない。 今後も増産やフル操業を見据えた追加雇用に向けて、県やハローワークと連携して会社説明会・面接会を共同開催するなど雇用支援に努めていく。</p>
25 既存企業の育成・支援	<p>令和2年度の製造品出荷額(令和2年工業統計調査)は、344億円となっている。目標値に対して、68.8%の実績値であった。 産業人材育成事業は利用実績は10件であった。企業訪問による事業案内や高知職業能力開発短期大学校と連携することで事業利用に繋がっており昨年度の実績は上回ることが出来たが、目標値には達していない。また、平成28年度から既存企業の育成支援を図るために創設した未来人材奨学金支援事業は創設から利用実績がなく、令和2年度より要綱を改正し、新卒者のみでなく中途採用(40歳未満の方)も対象とすることで利用の促進を図った。企業訪問による事業案内、企業説明会等で事業周知を行い、1件の認定に繋がったものの、認定対象者の中途退職により助成金の交付に至らなかった。引き続き、企業訪問や懇談会等で事業者へ周知を図るとともに、城山高校合同企業説明会において、学生にも事業紹介を行うことで利用件数の増加を図る。 行政や企業間の情報交換の場として懇談会(既存企業)を開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっており、香我美町立地企業交流会を12月10日に書面決議にて行った。また、企業等訪問は28回行っており、目標を大きく上回っている。固定資産税助成事業をはじめ、各種助成事業の説明や、雇用・経営状況、課題等の意見交換を行うことができた。今後も、継続して行うことで企業のニーズに合った事業紹介や支援制度の見直しを行い、雇用の促進と生産性の向上を図っていく。</p>

26 魅力ある商業地・商店街づくり
<p>平成23年度に商工会が市内のお店を紹介した「コミュニティガイドブック」を作成したが、その後更新が出来ていないため、更新に向けての協力体制の構築やデータでの作成も検討すべき等の意見が出されており、平成30年度にコミュニティガイドブックvol3を作成し175店舗を掲載している。令和2年度については、コミュニティブックの更新は行っていない。</p> <p>街バルイベント「香南カーニバル」を継続開催し、参加事業者数も82店舗となり、事業者・参加者共に好評であった。今後、飲食業以外の業種にも参加できるようにする等、新たな形で香南BIGカーニバル事業を実施し、落ち込んでいる市内経済の活性化を図る。</p>
27 空き店舗の活用
<p>平成28年度に空き店舗対策事業費補助金交付要綱を制定し、市のホームページへの掲載や市内金融機関を訪問して事業説明を実施している。空き店舗の新規活用件数(空き店舗等対策事業費補助金利用件数)については、市のHPに掲載を行い、問い合わせは1件あったものの、業種が合致せずに申請には至らなかった。今後、本補助金の利用促進を図るため、補助対象業種の拡充を行う。</p>
28 新規企業の育成・支援
<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催されていない。今後も香我美町立地企業交流会への参加を呼びかけ、行政や企業間の情報交換を図る。また、工業団地以外に立地した企業の入会や懇談会の内容充実にも努めていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
C	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>香南工業団地への企業誘致は図れたが、雇用者数については例年に比べ増加したものの目標値を下回っている。また、製造品出荷額についても目標に至っていない。今後も製造品出荷額増加や雇用拡大につながる取り組みを進める。</p> <p>既存企業の支援施策について、企業等訪問は目標よりも多く行っているが、充分な成果が出ていない。未来人材奨学金支援事業は要綱の改正や企業説明会等で事業説明を行っており、利用者の増加に向けて引き続き周知を図る必要がある。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	8. 観光の振興

①施策の基本目標

各観光施設・交流拠点のネットワーク化を図り、観光施設の連携促進を図ります。
また、核となる観光拠点の整備や広域観光の推進を行い、市内各地に観光客が訪れる質の高い観光地づくりをめざします。
あわせて、香南市情報発信及び国際観光の推進も行います。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
31	観光施設入込客数 (対象10施設)	人	目標	/	100万	120万	120万	120万	107万	110万	↘	
			実績	100.3万	104.7万	107.7万	106.2万	104.5万	90.7万			
37	大型クルーズ乗船客の本市への誘客回数	回	目標	/	-	6	6	6	10	10	-	
			実績	-	-	2	2	1	-			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
29	新たな観光拠点の整備	箇所 (累)	目標	/	0	0	0	1	1	1	→	
			実績	0	0	0	0	0	1			
30	ヤ・シィ特産品の製造・販売施設の販売額	千円	目標	/	47,934	51,022	52,578	54,193	54,611	55,030	↘	
			実績	着手	10,628	16,356	26,868	26,548	18,171			
30	地産地消の拠点の集客数 (直売所:やすらぎ市・あぐりのさと・天然色市場 または第2直販所)	人	目標	/	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	↘	
			実績	292,238	281,486	270,069	228,398	225,258	225,149			
30	特産品の開発数 (集落活動センター推進事業)	件 (累)	目標	/	2	3	4	4	5	5	↘	
			実績	2	3	3	4	4	4			
30	イベント集客数(どろめ・絵金・みなこい・冬の夏まつり)	人	目標	/	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	-	
			実績	63,000	60,400	68,000	44,000	64,000	-			
30	主要観光施設入込数 (DMO協議会:3市9施設)	人	目標	/	設定	665,200	711,000	732,500	777,000	815,000	↘	
			実績	着手	633,544	675,051	707,185	723,258	460,082			
31	歴史を中心とした博覧会の開催(観光客入込数)(対象15施設)	万人	目標	/	153.7	153.7	154.5	144.5	144.5	*	↘	
			実績	72	140.2	142.1	138.5	144.0	102.9			
32	観光施設連絡会の開催	回	目標	/	4	4	4	4	4	4	↘	
			実績	4	9	4	3	2	1			
33	サイクリングコースの設定	コース (累)	目標	/	3	4	5	6	6	6	→	
			実績	着手	3	6	6	6	6			
33	ウォーキングコースの設定	コース (累)	目標	/	6	8	10	10	10	10	→	
			実績	4	8	10	10	10	10			
34	物部川フェスタの集客数	人	目標	/	5,000	5,000	6,000	7,500	7,500	7,500	-	
			実績	5,000	4,000	3,700	5,000	6,000	-			
35	香南まるごと旨市の参加事業所数	所 (累)	目標	/	35	36	36	37	37	37	↗	
			実績	35	36	42	46	53	64			
36	ボランティアガイド(案内人)数	人 (累)	目標	/	10	19	26	26	26	28	↘	
			実績	10	26	22	23	24	24			
37	年間プロモーション数	回	目標	/	6	6	6	6	6	6	-	
			実績	3	1	2	3	5	-			

④128の施策ごとの「成果と課題」

29	新たな観光拠点の整備	<p>新たな観光拠点の形成として、三宝山の観光拠点化に向けて平成27年度より取組を開始している。平成29年度は土地及び建物所有者との使用賃借契約の締結(無償:H29.4/1~H34.3/31)と、運営事業候補者の公募を行い、5事業者より応募があり、全ての事業者を運営事業候補者として選定した。</p> <p>平成30年度に「基本計画」の整備計画の見直しを行い、三宝山エリア全体での観光拠点化を目指すこととし、令和元年度については三宝山中腹の市有地を売却し井上ワイナリー(株)による開発(ワイナリー)を開始した。</p> <p>令和2年度は、香南市産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、醸造所の建設及び整備を行った。令和3年度に予定されているブドウの収穫後、醸造所を稼働させ、メイドイン高知のワイン醸造を開始する。</p>
----	------------	--

<p>30 観光拠点の強化</p>
<p>平成28年6月に、物部川地域(南国市、香美市、香南市)において、観光活性化を面的に推進することを目的として「物部川DMO協議会」が発足し、その協議会と連携し観光拠点の強化を図っている。</p> <p>主要観光施設入込数と地産地消の拠点における集客数について、新型コロナウイルス感染症の影響による移動自粛・イベント中止・感染拡大による施設の休館等により、目標を達成することができなかった。イベントの集客数についても新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、実績値がない。今後も、国・県等ガイドラインにより開催していく。また、令和3年8月の天然色市場のリニューアルオープンに向けて、準備を進める。</p> <p>また、ヤ・シィ特産品の販売額についても、新型コロナウイルス感染症によるGW期間中の一時休業やイベント商談の中止、感染防止策に努めた客席の間引き営業等の影響から、売上高は目標に比べ、大幅減となった。引き続き、加工所兼店舗の売上増へ取り組みを実施する。</p> <p>集落活動センターにおける特産品を活用した商品開発については、令和2年度に開設した岸本地区集落活動センターの特産品の研究を行った。</p>
<p>31 歴史を中心とした博覧会の開催</p>
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言や移動自粛、インバウンド需要の増減に加え、11月末から12月にかけての高知県内での感染拡大や施設の一時休業等により、観光施設入込数の目標値を達成できなかった。また、落ち込んだ入込数の回復のために「香南市で遊ぶ割♪キャンペーン」や「香南市で泊まらうクーポン券配布事業」を行ったが、感染拡大により令和2年12月28日から令和3年2月末までの期間、事業の停止を余儀なくされた。令和3年度は、「香南市で遊ぶ割♪Vol.2+泊まらう割♪キャンペーン」を実施し、観光入込客数の回復を図る。</p> <p>※観光施設(対象10施設) ①県立のいち動物公園②月見山こどもの森③ヤ・シィパーク④絵金蔵⑤天然色市場⑥やすらぎ市⑦あぐりのさと⑧黒潮温泉⑨創造広場「アクトランド」⑩土佐カントリークラブ</p>
<p>32 観光施設間の連携</p>
<p>観光施設連絡会を開催し、市内各地域の観光施設や宿泊施設等の相互交流を行った。また、市内への誘客や周遊促進策の検討を行い、連絡会の中で観光施設の視察、見学を行うことで、施設間の情報共有を行った。来年度以降も、各施設の情報共有とヤ・シィパークを中心とした観光クラスター形成に向けて、観光関連事業者の連携した企画やアプリ等を活用した周遊促進策について協議を行う。</p>
<p>33 地域に親しむ観光の促進</p>
<p>サイクリングコースは平成29年度に2コース設定し、合計6コースが設定されている。令和2年度については6月にヤ・シィパーク～岸本間の自転車道の整備が完了、7月に物部川右岸河川敷自歩道の整備が完了している。また、令和2年度に策定予定であった自転車を活用した観光への取り組みを具現化していくための指針とした自転車活用推進計画は、新型コロナウイルス感染症で会議等がスケジュールどおりに行えなかったため、令和3年度に繰り越した。今後も安全・快適に楽しめるイベントや環境整備を進めていく。</p> <p>ウォーキングコースは、各町2コースずつを設定することができ、目標を達成している。今後は、ウォーキングのイベント開催および参加者の増加が図れるように取組を行っていく。</p>
<p>34 物部川地域3市での観光振興</p>
<p>平成29年度に物部川流域フェスタ実行委員会を「物部川DMO協議会」へ引き継ぎ、3市(南国市・香美市・香南市)と3市の観光協会・商工会を中心に、例年ものべがわフェスタを開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。代替として、フェスタ期間中にもものべがわエリア3市の観光施設や宿泊施設などで有料の体験・宿泊・お買い物をする500円で1回でガチャガチャができる「ものべがわフェスタ2020ガチャ祭り」を開催し、地域の魅力を発信した。来年度以降もDMO協議会を中心として3市の関係者が連携し、観光振興を図る。</p>
<p>35 活性化に向けたあらゆる産業との連携の強化</p>
<p>市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援としてカタログ販売に取り組んでいる。</p> <p>「まるごと旨市」については、「香南カタログギフト通年号2020-2021」を、64事業所257品目掲載し20,000部配布。目標値を上回っており、ふるさと納税及び地場促進の販売額を伸ばしていく。</p>
<p>36 おもてなしの向上</p>
<p>観光レクリエーション施設や史跡などを紹介する観光ボランティアガイド(案内人)は現在24名の登録がある。コロナ禍でもガイド受入等の活動を行うことにより、会員増加に繋げる取り組みができた。今後も、新型コロナ感染症の感染状況を見極めながら、会員増に向けた勧誘や広報に取り組み、ガイド受入可能な体制の強化を図っていくとともに、ガイド技術向上のための勉強会や研修会を開催する。</p>
<p>37 外国人観光客の受け入れ体制づくり</p>
<p>大型クルーズ乗船客の本市への誘客、年間プロモーション活動は新型コロナ感染症の影響により実施されていない。</p> <p>今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら、商談会等に参加し、旅行会社へのセールスを行い、香南市の地名度アップを図る。また、各観光名所や地元住民等と連携した体験モニターを実施し、市の魅力発信や集客数拡大を図る。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>C</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>観光客入込数は高い目標値を設定していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により目標値には届いていない。</p> <p>ヤ・シィ特産品(manama)の販売額も大きく目標に届いていない。新型コロナウイルス感染症によるGW期間中の一時休業やイベント商談の中止、感染防止策に努めた客席の間引き営業等の影響から、売上高は目標に比べ、大幅減となった。引き続き、加工所兼店舗の売上増へ取り組みを実施する。</p> <p>なお、観光ボランティアガイド(案内人)数も目標に至っておらず、今後も会員増加に向けて周知等の取組が重要である。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	9. 住宅関連産業の振興及び定住環境の充実

①施策の基本目標

<p>住環境及び市営住宅の整備、住宅の耐震化を行い、香南市に安心して住み続けてもらう定住環境の充実に努めるとともに、住宅関連産業の振興を図ります。 また、「移住・定住促進」の住まいづくりとして、空き家活用等による効率の良い住宅提供をめざします。</p>
--

②基本施策の「まちづくり指標」_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
40	住宅耐震改修件数(工事)	棟	目標	/	110	110	120	120	60	60	↘	
			実績	100	70	89	68	57	52			
42	空き家バンク登録件数	棟 (累)	目標	/	3	5	20	40	52	64	→	
			実績	着手	3	18	32	40	52			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
38	住宅リフォーム助成件数(予算)	件 (万円)	目標	/	67 (1,000)	75 (1,500)	75 (1,500)	75 (1,500)	75 (1,500)	75 (1,500)	↗	
			実績	78 (1,000)	57 (978)	89 (1,409)	100 (1,456)	98 (1,500)	113 (1,459)			
39	合併浄化槽および手摺設置件数(改良住宅)	棟	目標	/	24	30	30	30	20	22	↗	
			実績	10	20	14	14	0	22			
39	屋根外壁改修の棟数(改良住宅)	棟	目標	/	2	0	0	8	18	7	↘	
			実績	8	2	0	0	0	0			
40	木造耐震診断件数	件	目標	/	120	120	120	120	60	60	↘	
			実績	113	127	94	83	63	55			
40	コンクリートブロック塀等への対策件数	件	目標	/	15	15	15	15	25	25	↘	
			実績	9	12	14	27	25	18			
41	老朽化した住宅等の除去件数	件	目標	/	20	20	20	20	30	30	↗	
			実績	23	20	20	28	29	35			
42	移住者向け支援住宅の整備件数(市管理)	棟 (累)	目標	/	1	2	1	1	1	1	→	
			実績	0	0	1	1	1	1			

④128の施策ごとの「成果と課題」

<p>38 住環境の整備</p> <p>市内に所有および居住する個人住宅を対象に、住宅のリフォーム工事に対して工事費(消費税抜)の20%(上限20万円)で補助を行った。令和2年度は113件の利用(交付額1,459万円)があった。本事業については利用度も高く、市内経済の発展に寄与していることから、今後も継続する見込みである。</p>
<p>39 市営住宅の整備</p> <p>市営住宅の改修については、22戸の吉川町の市営住宅に、単独処理浄化槽から合併浄化槽への変更と、福祉対応型改修工事として手すり等の設置工事を実施した。また、令和3年度に向けた設計を22件実施したことから、居住者から設置工事の承諾を得られる取り組みにも着手し、設置工事を行うように取り組む。屋根外壁改修についても次年度より計画的に改修を進めていく。</p>
<p>40 南海トラフ地震への備え</p> <p>住宅耐震診断の費用を補助し、個人住宅の耐震化の促進を図った。木造住宅は自己負担3千円(診断調査手数料)で、非木造住宅は3万円を補助している。木造耐震診断は55件の利用があり、耐震関係事業ではある一定進んでいること等から、各事業の申請件数は減少傾向にある。また、住宅耐震改修(工事)は52棟の利用があったが、耐震診断同様に目標値を下回っている。両制度の周知はもちろんのこと、耐震診断だけで終わらず耐震改修に繋げていくことと住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。コンクリートブロック塀への対策数についても目標値に達しておらず、18件となっている。大阪府北部地震後には問い合わせが多数あったが、近年は減少傾向にある。引き続き、制度の周知・啓発を行う。</p>
<p>41 老朽化した住宅等の除去</p> <p>避難路等に面している又は延焼により近隣住民に影響する場所に存在する著しく老朽化した住宅等の除去に要する経費に対して、補助金(補助率80%、上限1,645千円)の支給を行った。令和2年度は35件の利用があり、事業は順調に進んでいる。老朽化した空き家の増加や制度が住民に広く認知され増加傾向にある。今後も、広報活動や管理不全な状態の空き家への指導・助言時に補助制度の紹介を行う。</p>

42 移住者向け住宅の確保と促進

香我美町の東川・西川地区と夜須町の北部地区の中山間地域をモデル地域とし、市が空き家を10年間借上げ、移住者向けのお試し住宅の整備を1棟行っており目標は達成している。

また、香南市全域を対象とした「空き家バンク」の登録については、令和2年度は12棟(累計52棟)の登録を行うことができ、目標を達成した。今後は、まちづくり協議会・自治会から情報提供のあった空き家について、現地調査を行い、活用できる空き家の掘り起こしに取り組む。また、空き家バンク登録物件については、改修が必要なものがほとんどであるため、移住希望者とのスムーズなマッチングにつながらないことが多いことが課題である。市広報等を通して、空き家バンク及び空き家改修補助金制度の周知にも努めていく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果</p> <p>(A) 充分成果がでている</p> <p>(B) ある程度成果がでている</p> <p>(C) あまり成果がでない</p>	<p>定住環境の充実として、住宅耐震改修および木造耐震診断に取り組んでいるが、目標件数には至っておらず、引き続き制度の周知に努める。</p> <p>住宅リフォーム助成事業は、市民ニーズや制度の利用率も高く、住宅関連産業の振興も図られており、目標を上回る実績となっている。</p> <p>また、「移住・定住促進」のための空き家バンクも目標どおりに確保できており、移住者の実績は毎年増加している。引き続き、空き家バンクの整備と地域での移住者の受け入れ体制の充実を図る。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	10. 分野を超えた連携

①施策の基本目標

様々な地域資源(生産物・風景・伝統文化など)の価値を再発見・創造し、新たな魅力づくり(付加価値化)や地域づくりの効果的な連携により地域経済の活性化を図ります。
また、雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場の整備を行い、人材の育成・確保を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
43	市内生産物を活かした魅力ある新商品の開発	件 (累)	目標	/	着手	0	1	1	2	2	↗	
			実績	-	0	5	6	8	10			
44	食や体験、宿泊などを組み合わせた周遊モデルコース数	コース (累)	目標	/	4	6	8	10	10	10	↘	
			実績	着手	4	6	6	6	6			
45	産業人材支援制度利用者数 【再掲】	件 (累)	目標	/	5	10	15	20	25	30	↘	
			実績	着手	0	1	2	5	10			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
44	情報発信となるアンテナショップの設置	箇所 (累)	目標	/	0	0	0	0	0	1	-	
			実績	0	0	0	0	0				

④128の施策ごとの「成果と課題」

43 6次産業化による地産地消・外商の推進	<p>農作物のブランド化の推進と加工品の開発に取り組み、平成29年度に5件(山北みかんバター、山北みかんかき氷、山北みかんジュース、山北せとかジュース、山北せとかゼリー)の商品開発に成功し、山北みかんバターと山北みかんかき氷は販売を開始している。令和2年度は、新商品として山北みかん氷と山北みかんハードサイダーの試作品が完成した。 今後も引き続き、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組んでいく。</p>
44 観光クラスターの整備	<p>平成29年度に2つの周遊モデルコースを設定し、合計6コースとなっている。令和2年度に新たなコースの設定はできておらず、目標達成には至っていない。コース設定はもちろんのこと、設定に際しては、外国人観光客の受入体制の強化や観光施設が連携した魅力的な観光コースの設定をめざして取り組んでいく。</p>
45 産業人材の育成・確保	<p>産業人材育成事業は利用実績は10件であった。企業訪問による事業案内や高知職業能力開発短期大学校と連携することで事業利用に繋がっており昨年度の実績は上回ることが出来たが、目標値には達していない。今後、企業訪問、企業合同説明会等で周知を行うとともに、引き続き高知職業能力開発短期大学校と連携し、事業利用件数の増加を図る。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>山北みかんを生かした6次産業化に取り組み、商品開発や販売の開始ができています。令和2年度も新商品の開発に取り組めており、地産地消・外商の推進に繋がっている。引き続き、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組んでいく。 食や体験、宿泊などを組み合わせた周遊モデルコース(観光クラスター)の整備については、新たなコース整備は図れていないが、整備したモデルコースの魅力のPRには努めている。 産業人材支援制度利用者数の実績は10件であり、例年より増加しているが目標には至っておらず、今後も周知や他機関との連携を図る。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	11. 幼年期の支援の推進

① 施策の基本目標

誰もが安心して子どもを生み育てることができ、子どもがいきいきと健やかに育つ環境を整えるために、家庭・地域・関係機関と連携しながら妊娠・出産・育児・就学前保育・教育をサポートしていく施策を展開します。
 すべての子どもがすこやかに成長・発展できるよう、また安心して子育てができるよう、妊娠期からの継続した相談や支援が受けられる体制の充実を図ります。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
47	乳児家庭訪問率 (H27年度のみ延訪問率)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	128.0	99.2	98.1	97.5	98.6	98.6			
48	地域子育て支援センター利用者数	人	目標	/	5,200	5,800	6,400	7,000	10,800	10,800	↘	
			実績	4,811	4,542	9,733	8,436	11,175	10,197			
48	市のHP(子育て情報サイト)のアクセス数	回	目標	/	3,000	4,000	5,000	6,000	9,000	9,000	↘	
			実績	着手	1,826	4,328	6,031	9,063	8,798			

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
46	パパママ教室参加率	%	目標	/	12.8	13.0	13.2	13.4	21.0	21.0	↘	
			実績	14.3	18.2	11.5	20.8	17.4	18.5			
47	育児教育相談利用者数(延)	人	目標	/	562	562	562	562	650	650	↘	
			実績	697	545	491	723	636	527			
48	ショートステイ施設数	件	目標	/	5	5	5	5	5	5	→	
			実績	3	4	4	5	5	5			
48	保育所の一時預かり数(延)	人	目標	/	838	838	838	838	1,300	1,300	↗	
			実績	1,001	977	1,217	1,229	1,470	1,347			
49	本の読み聞かせ回数 (ブックスタート事業)	回	目標	/	12	12	12	12	12	12	-	
			実績	12	12	12	12	11	-			
49	本の読み聞かせ回数 (こども課)	回	目標	/	24	24	24	24	24	24	↘	
			実績	24	24	24	24	19	19			
49	本の読み聞かせ参加者 (図書館およびボランティア)	人	目標	/	500	500	500	500	500	500	↘	
			実績	480	460	896	970	1,122	420			
49	図書館利用者数(登録者数) (野市・香我美)	人 (累)	目標	/	15,000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000	↘	
			実績	14,510	14,411	22,763	23,431	24,179	24,279			
49	朝食摂取割合(3歳児)	%	目標	/	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9	96.5	96.4			

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

46 妊産婦の安心で安全な環境づくりの推進
<p>パパママ教室は、申し込み多数により教室開催数を増加して11回(個別対応含む)開催し、参加率は18.5%となった。また、コロナウイルス対策として定員4組で実施した。教室では、妊娠期と授乳期の栄養、出産準備、産後の生活、出産前後の体の変化、母乳栄養、沐浴体験などの内容で実施し、安心して妊娠・出産・育児ができるように支援を行っている。妊婦同士の交流や、父親の役割を考える機会ともなり父親の育児参加の支援の場にもなっている。次年度も、妊婦やその家族が参加しやすいようアンケートに基づいた教室内容の構成に取り組み、平日午後開催・土日開催を継続していく。</p>

<p>47 親と子の心と体の健康づくり</p>
<p>乳児家庭全戸訪問は原則生後4か月を迎えるまでのすべての乳児のいる家庭を対象としているが、里帰り出産や長期入院等を理由に生後4か月を経過して訪問せざるを得ない場合もあり、これらを含めて訪問率は98.6%である。100%には達していないが、来所等で面接し全員の把握はできている。引き続き子どもの発達状況や母親の健康状態を確認し、育児不安の解消と乳児家庭の孤立化を防ぎ、必要な支援につなげ、乳児の健全な生育環境の確保に努める。</p> <p>健康対策課主催の育児相談(月1回)・母乳相談(週1回)を開催している。令和元年9月からは総合子育て支援センター「にこなん」へのつなぎや同じ悩みを持つ母親同士の仲間づくりを目的としセンター内で実施している。こども課主催の育児教育相談(教育相談、ほのほの相談、子育て支援センターでの相談)は527件の利用があった。年度によって相談件数は変動が大きいのが、悩みがあるものの、相談窓口があることを知らない、あるいはよく分からないという保護者も考えられる。保育所や幼稚園、総合子育て支援センター「にこなん」等で保護者から相談を受けた場合、必要に応じて教育相談の紹介を行うとともに、窓口を知らない方への周知も積極的に行う。</p>
<p>48 子どもと子育て家庭に優しい環境づくり</p>
<p>総合子育て支援センター「にこなん」及び出張ひろば4ヶ所では、妊婦や0歳から就学前の子どもと保護者等を対象に、育児相談や交流の場の提供、子育て関連情報の提供などの子育て支援を行っており、「にこなん」で10,197人、出張ひろばで665人の利用があった。コロナ禍で4、5月に開所できなかったことや、6月以降も利用人数制限をしたうえでの開所であったにも関わらず、目標値を大きく下回ることはなかった。引き続き、利用者の増加を図るとともに、支援が低下することなく、子育て家庭への専門性を生かした総合的な支援ができる拠点施設となるように努めていく。</p> <p>平成28年度に開設した、子育て情報サイトへのアクセス数は8,798件あった。登録された子育て世帯には、メルマガとして「エプロンだより」と「すこやか通信」をメール配信し、子育てに関するタイムリーな情報も提供している。今後、多くの場面で今まで以上に啓発活動に努めるとともに、関連する部署と連携し内容の充実を図っていく。また、メルマガ配信内容の工夫を図るとともに、ユーザーにマッチした情報発信に取り組むため、ホームページ「香南キッズ」のリニューアルを行う。</p> <p>ショートステイ施設(子育て短期支援事業)は、5ヶ所(児童養護施設2ヶ所、母子生活支援施設2ヶ所、乳児院1ヶ所)と契約を結んでおり目標値を達成している。</p> <p>保育所の一時預かり数は1,347人で、目標以上の利用があった。保護者のニーズに応えられるよう、受け入れ体制を整えていく必要がある。</p> <p>※子育て短期支援事業(ショートステイ)・・・保護者の方が疾病その他の理由により、家庭において児童を養育することが一時的に困難となった場合や、経済的な理由により緊急一時的に母子を保護することが必要な場合等に利用できる施設。</p>
<p>49 質の高い保育・教育の推進</p>
<p>ブックスタート事業は、絵本をきっかけに「親子で楽しい時間を過ごしてもらおう」とする事業である。令和2年度から、対象の方には4カ月検診の案内文書を同封してお知らせし、「にこなん」にて絵本を贈呈している。実績値としては算出できないが、親子のふれあいの促進と乳幼児期から絵本に親しみ、読み聞かせの大切さの啓発をしている。また、こども課主催で、各保育所・幼稚園では外部講師による読み聞かせ(就学前読書活動)を実施した。読み聞かせは、子どもたちに絵本の楽しさに気づかせたり、読書への興味関心を高めることで感性や親子のふれあい促進に必要な事業であり、今後も取り組んでいく。</p> <p>生涯学習課主催で、図書館主催事業や読書ボランティア団体の協力を得ながら子どもたちに読み聞かせを行った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4～7月は開催を中止し、8月より一部制限を設けての実施となった。コロナ対策として人数制限等、新生活に基づく対応を継続する。読み聞かせのニーズは高く、読み聞かせとあわせてボランティア集団の育成を図っていくかなければいけない。</p> <p>3歳児の朝食摂取率は、96.4%と目標値には至っていないが、これまでに若干数見られた週3～4回食べない、または食べない子どもは0%であった。今後も、保育所、幼稚園、食生活改善推進協議会、子育て支援センターと連携して食育事業を実施することや乳幼児健診では個別相談に応じ、状況に応じた支援を行う。</p>
<p>50 すべての子どもの成長を保障する環境づくり</p>
<p>養護相談については、目標を定めるのではなく、必要な時に応じることができる体制をとっている。今後も、すべての子どもたちが平等で安全にすくすくと育つ環境を整えていくことと、利用が増加するようであれば、事業所との相談体制の拡充を図る必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>パパママ教室などの妊産婦期の相談活動や育児相談(健康対策課・こども課)など妊娠・育児をサポートしていく施策を展開し、コロナ禍でも参加者を確保している。事業は継続して行い、事業の周知や関係する組織内部の連携強化を図る。</p> <p>子育て支援センターの利用者もおおむね目標に近い利用者があり、子育て家庭への支援が図れている。総合子育て支援センターが開設され、支援が低下することなく、子育て家庭への専門性を生かした総合的な支援ができる拠点施設となるように努めていく。</p> <p>読み聞かせ等の活動では新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおりに実施できていないものもあるが、感性やふれあいの促進に必要な読書への興味関心が高まっている。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	12. 就学期の支援の推進

①施策の基本目標

豊かな心を持ち、たくましく健やかに子どもが育つ環境を整えるために、家庭・地域・関係機関と連携しながらサポートしていく施策を展開します。
また、地域社会の見守り、就学支援、質の高い教育環境を整えることなどによって、香南市で子どもを育てたいと思える環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
52	児童クラブの利用者数	人	目標		340	385	385	385	385	450	↗	
			実績	336	359	375	370	390	397			
53	朝食摂取割合(小3~小5)	%	目標		96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	-	
			実績	95.9	95.0	95.1	95.0	94.1	-			
54	地域学校協働本部設置数	校 (累)	目標		5	6	7	8	11	11	→	
			実績	4	5	6	7	11	11			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
51	凧揚げ・地引網等参加者数	人	目標		1,150	1,200	1,200	1,200	1,300	1,300	↘	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300	1,300	44			
51	スポーツ少年団の団体数	団体	目標		26	27	28	28	29	29	↘	
			実績	27	26	27	26	26	27			
51	スポーツ少年団の会員数	人	目標		580	600	610	620	610	610	↘	
			実績	597	543	518	532	521	440			
51	夏休みこども教室の開催数	回	目標		22	23	24	25	25	25	-	
			実績	21	25	25	25	29	-			
53	親子料理教室開催数	回	目標		1	1	1	1	1	1	-	
			実績	1	1	1	1	1	-			
54	児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)(小学6年生)	%	目標		86.0	86.5	87.0	87.5	90.0	95.0	-	
			実績	88.9	89.4	91.4	73.4	88.8	-			
54	児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)(中学3年生)	%	目標		75.0	75.2	75.5	76.0	77.0	77.0	-	
			実績	64.5	74.1	75.0	46.0	76.8	-			
55	不登校児童生徒の発生率(小学校)	%	目標		0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↘	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62	1.05	1.06			
55	不登校児童生徒の発生率(中学校)	%	目標		6.38	5.00	4.50	4.00	4.00	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41	4.86	5.01			
55	スポーツ大会開催数(小中高高校生対象)	回	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	3	3	5	4	5	2			
55	スポーツ大会参加団体数	団体	目標		60	60	60	60	60	60	↘	
			実績	60	60	88	83	98	32			

④128の施策ごとの「成果と課題」

51 豊かな人間形成を育む環境づくり	<p>地域社会との関わりが重要なことから、各種イベント等の開催に取り組んでいる。</p> <p>三代交流イベントとして凧揚げを実施しているが、令和2年度は凧揚げ大会は中止、交流事業(サイクリング大会)に44人参加した。就学前児童から小学生まで多くの子どもと保護者の参加があり、屋外での交流の場として続けていきたい。また、駐車場の確保が急務である。屋外行事を行うことで少しでも多くの参加者を迎えられるよう改善する。また、スポーツ少年団については、団体数は目標値には至らなかったが、少子化が進む中、数あるスポーツ種目をほぼ網羅しておりニーズは満たされている。会員数についても目標値には至っていない。少子化や余暇活動の多様化等で会員数の減少が懸念される。関係団体等の広報活動やスポーツ推進委員等の協力を得て、団体のPRを行い、各種スポーツ体験にも参加していただき会員増を目指す。</p> <p>夏休み親子教室は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催していない。新型コロナウイルス感染症の懸念が続くことを想定し、少数開催や、オンライン教室の手法などを考案する。</p>
--------------------	--

52 子ども・親・家庭に優しい環境づくり
<p>児童クラブを6小学校10か所で実施し、共働き家庭等の児童(1~6年生)を放課後から18時(一部18時30分)まで預かり、令和2年度は397人の利用があった。待機児童の生じていた野市小・香我美小で放課後児童クラブの新設工事を行ったことで、令和3年度に向けての施設環境を整えることができたが、受け皿となる支援員の確保が最重要課題となっている。今後、ハローワークや広報誌などの媒体を使った情報発信をはじめ、現在勤務している支援員や児童クラブを利用している保護者へ支援員募集を呼びかけるなど、あらゆる手段を講じて求人の開拓を行っていく。</p>
53 親と子の心と体の健康づくり
<p>小学校3~5年の朝食摂取割合について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響で全国学力・標準学力調査が中止となったため、調査することはできなかったが、11月に実施した高知県児童生徒学習状況調査(小6対象)では、「朝食を毎日食べている」の設問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童は95.7%であった。今後も食育だよりを作成するとともに、朝食づくり事業についても実施していく。</p> <p>また、親子料理教室は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は中止となった。啓発の機会が減ったため、給食だよりやクラスだより等で保育所での子どもの様子を伝えたり朝食の大切さの啓発を行った。</p>
54 学校と地域の連携による教育環境づくり
<p>地域学校協働本部は令和元年度に目標を達成し11校すべての小中学校で設置できている。協働本部では、地域の人材を積極的に活用し、地域と学校とが連携・協働し、授業支援や放課後学習支援、登下校見守り、周辺環境整備等を実施し、地域の見守り体制の強化に繋がっている。コロナ禍のなかで、地域の中での見守り等、接触が少なく多人数の対面ではない場面の工夫や積極的な情報発信等により、地域と学校の協働関係を維持していくことが重要である。</p> <p>また、全国学力・学習状態調査での、「児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)」は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施しないこととなったため、実績値を出すことができない。基本的な生活習慣の確立・学力の向上・社会性の育成など、キャリア教育のねらいに沿った取組や、社会の一員であることを目指し、職場体験学習や「総合的な学習の時間」の更なる充実を推進する。</p>
55 すべての子どもの成長を保障する環境づくり
<p>不登校児童生徒の発生率について、小学校については1.06%と少し増加している。全ての小学校で「魅力ある学校づくり」に向けた取組を実施したが、不登校生徒を無くすという課題は解決には至っていない。引き続き、各学校で「魅力のある学校づくり」に向けた取組を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止に取り組む。中学校においても、昨年度より増加し5.01%であった。全ての中学校でも「魅力ある学校づくり」に向けた取組を実施し、不登校児童が出ない取り組みを行った。PDCAシートを使った話し合いを行い、新たな不登校を生まない未然防止の取組が必要である。また、教員の同僚性・関係機関の連携等を生かした継続的な取組を推進する。</p> <p>さらに、不登校児童生徒だけでなく、すべての子どもの安心できる環境づくりや健やかな成長を育む環境づくりに努めていく。</p> <p>スポーツ大会においては、2回開催し、全32チームの参加があった。新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、目標値には至っていない。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>家庭・地域・関係機関と連携し、地域学校協働本部の設置は全小中学校に設置し目標を達成できている。児童クラブの利用者数は目標以上の利用者数となっているが、受け皿となる支援員の確保が最重要課題となっており、広報活動等を通して求人の開拓を行う。また、地域社会と関わる各種イベントや教室等は、新型コロナウイルス感染症の影響により交流の場が減少した。今後もたくましく健やかに子どもが育つ環境づくりに取り組み、児童生徒の役立ちたいという意欲の向上を図る。</p> <p>不登校児童の解消や児童生徒の夢や意欲を持つ割合の向上はあまり改善が見られない。学校や関係機関と連携を図りながら、全ての子どもが安心できる環境づくりに努めていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	13. 成年期の支援の推進

①施策の基本目標

誰もが参画できる地域社会を形成し、新たな出会いがあり、家庭を築き、安心して子どもを産み育てられ、生きがいを感じられる生活環境づくり、活気ある地域社会の形成を支援する施策を展開します。
また、地域の活力の源となる人口を増やすことが重要であり、香南市に移り住む方を応援し、受け入れ体制づくりの充実を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
57	出会いの場の参加人数	人	目標	/	60	60	60	200	100	100	↘	
			実績	着手	77	179	141	77	95			
61	移住者 (移住相談窓口を通じた数)	組	目標	/	2	5	10	20	32	34	↘	
			実績	1	6	18	29	29	31			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
56	健康診査受診者数 (20~39才)	人	目標	/	110	110	110	110	115	115	↘	
			実績	143	135	112	111	85	21			
56	外出支援サービスでの外出支援利用率(下段:利用者数)	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100 (5)	100 (7)	100 (6)	100 (6)	100 (6)	100 (1)			
57	出会いの場の開催回数	回	目標	/	3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	着手	3	3	2	2	1			
57	婚姻件数	件	目標	/	148	150	152	154	156	158	↘	
			実績	142	139	161	129	125	130			
57	合計特殊出生率	人	目標	/	1.50	1.54	1.57	1.60	1.62	1.64	↗	
			実績	1.48	1.52	1.30	1.58	1.45	1.65			
58	パパママ教室参加率【再掲】	%	目標	/	12.8	13.0	13.2	13.4	21.0	21.0	↘	
			実績	14.3	18.2	11.5	20.8	17.4	18.5			
59	各種教室の開催回数	回	目標	/	170	170	170	170	170	170	↗	
			実績	179	613	431	484	462	496			
59	市長杯等の参加者数	人	目標	/	500	520	550	570	800	800	↘	
			実績	480	501	490	769	873	729			
59	スポーツ少年団認定員資格の取得者数	人 (累)	目標	/	66	66	66	68	75	78	↗	
			実績	64	71	73	79	81	84			
59 60	地域ボランティア登録者数	人 (累)	目標	/	100	100	100	100	100	110	↗	
			実績	103	124	135	141	151	129			
59	町民運動会参加団体数	団体	目標	/	41	42	42	43	43	44	-	
			実績	41	36	39	38	36	-			
59	市美術展への出品者数	人	目標	/	230	230	230	230	230	230	↘	
			実績	225	204	182	208	177	208			
59	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で20~39才が対象)	%	目標	/	34.0 20.0	34.0 24.0	18.0	20.0	20.0	20.0	↗	
			実績	27.0 9.4	22.9 12.0	37.5 8.0	18.0	10.0	28.6			
61	移住促進HPのアクセス回数	回	目標	/	300	4,000	5,000	65,000	68,000	70,000	↗	
			実績	着手	3,582	49,825	67,226	55,407	82,096			
61	空き家バンク登録件数【再掲】	棟 (累)	目標	/	3	5	20	40	52	64	→	
			実績	着手	3	18	32	40	52			
61	移住者向け支援住宅の整備 件数(市管理)【再掲】	棟 (累)	目標	/	1	2	1	1	1	1	→	
			実績	未実施	0	1	1	1	1			

④128の施策ごとの「成果と課題」

<p>56 いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進</p>	<p>健康で安心して暮らせる環境づくりの第一歩として、健康診査(20～39歳)を実施し、21名が受診した。新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言により4月13日～6月末まで集団健診が中止となり、7月から再開するが、特定検診の対象者外の20～39歳には積極的な受診推奨を控えたため、受診者は減少した。若い世代から生活習慣病のリスクが高い方も多く、事業を利用することで、疾病を早期発見、早期治療し、結果として壮年期の死亡の減少、医療費等の軽減につながる為、今後も新しい健診体制を継続して実施する。</p> <p>また、社会参加のための外出支援サービスを実施しており、令和2年度は1人の利用があった。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が利用者数が少ない。移送車両等の移動支援を必要としている障害者のサービス利用を促進するよう、体制を確保し整える必要がある。</p>
<p>57 出会い・新しい家庭づくり支援の推進</p>	<p>香南市恋いめぐりあい応援事業を活用し、ボランティア団体(よりあいにこ家)が「出会い結婚窓口相談」を活用し、95人の利用者があった。なお、市主催婚活セミナーについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止とした。今後、市主催事業としては結婚を望む独身男女を対象に、婚活のためのスキルアップセミナーを実施予定。婚活に対して積極的に取り組んでいる方により効果的に広報するとともに、「よりあいにこ家」による相談窓口型事業への支援も継続して行っていく。また、「香南市恋いめぐりあい応援事業(補助金)」を活用しやすい制度としていくために、補助金要綱を見直し、本事業の周知と活用を促進を行い、イベント数の増加やそれに伴う参加者数の増加に繋げていく。</p> <p>婚姻件数においては、130件と前年度より増加したが、目標値には達していない。</p> <p>合計特殊出生率は、1.65で目標値を達成した。出生数も225人と前年度と比較すると多くなっている。今後も、出生率についての分析を行うとともに、引き続き、子どもの出産と育児に対する環境の支援体制を図っていく。</p>
<p>58 親と子ども・働く環境との両立支援の推進</p>	<p>ババママ教室は、申し込み多数により教室開催数を増加して11回(個別対応含む)開催し、参加率は18.5%となった。また、コロナウイルス対策として定員4組で実施した。教室では、妊娠期と授乳期の栄養、出産準備、産後の生活、出産前後の体の変化、母乳栄養、沐浴体験などの内容で実施し、安心して妊娠・出産・育児ができるように支援を行っている。妊婦同士の交流や、父親の役割を考える機会ともなり父親の育児参加の支援の場にもなっている。次年度も、妊婦やその家族が参加しやすいようアンケートに基づいた教室内容の構成に取り組み、平日午後開催・土日開催を継続していく。</p>
<p>59 生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援</p>	<p>こうなんスポーツクラブへ委託しているスポーツ教室は、毎年要望等を受け変更しており、令和2年度は延496回開催した。また、市長杯等の参加者数は729人であった。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となったことで前年度と比較して参加者数が減少している。運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので徹底周知し参加を促していく必要がある。</p> <p>市美術展への出品者数は、昨年度よりも増加したが目標の達成には至っていない。出品者の高齢化に伴い、年々減少傾向で令和元年度は177人まで落ち込んだが、令和2年度は新規の方20人、高校生6人の出展があったため208人まで復活した。しかし、県内の公募展も全体的に出品者数が減少しており、市展全体の見直しを考える必要がある。</p> <p>ボランティア登録数については、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、目標値を大きく上回っている。主な活動支援内容は、読書ボランティア活動であり、保育所・幼稚園への読み聞かせ活動で今後も継続して行なっていくが、登録者の方々の高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている。</p> <p>運動習慣については、平成30年度から男女合算の数値に変更し、全体での運動習慣の向上にむけて啓発活動を行っており、目標値を上回ったが、コロナ禍でも健康に関心の高い層が健診を受診したため、評価が上がったとも考えられる。今後も、運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p>
<p>60 配慮が必要な人、誰もが安心して生活できる地域社会の形成支援</p>	<p>ボランティア登録数については、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、129人の登録があり目標値を大きく上回っている。主体は社会福祉協議会であり、地域住民のボランティア活動の発掘・仲介等を行なった。</p>
<p>61 移住者ウエルカム支援の推進</p>	<p>令和2年度の移住者(移住相談窓口を通じた数)は、31組(50人)で目標値には届かなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により、県外での上半期の移住相談会が中止となったが、オンライン相談窓口を開設し、コロナ禍でも対応できる対策を講じた。高知県等が主催する県外移住相談会への参加をはじめ、広域で連携した移住ツアーのほか、関係人口や交流人口の拡大を図る事業展開により将来的な移住を掘り起こす。また、移住者交流会の開催など、移住後のアフターフォローを行い、移住者からの意見などを集約し、移住から定住につなげる。</p> <p>移住促進HPと空き家バンクに平成28年度から取り組んでおり、令和2年度は82,096回のHPアクセスと12棟(累計52棟)の空き家バンクの登録を行うことができています。移住専門HP「香南住む～ず」のアクセス数は、閲覧回数の多い空き家バンク情報の登録物件数が増加したことや掲載情報をこまめに更新したこと、他課と連携した情報発信を行ったことにより、アクセス数が増加した。今後、他部署と連携した幅広い情報発信をこまめに行うとともにSNS(インスタグラム、Facebook)も積極的に活用していく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>〔基準〕基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>成年期の世代が活気ある地域社会の形成を図れるように、各種教室や大会を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により例年より実績が少ない指標がみられた。また、教室や大会への参加以外にも運動習慣は欠かせないものであり、実績は令和元年度より大きく上回っており、目標を達成している。今後も、啓発や事業を実施する。</p> <p>移住者を増やす取組の成果が表れ移住者もおおむね目標どおりの数値となっており、コロナ禍でもオンライン相談窓口やHPの更新をこまめに行なったことで成果がでている。</p> <p>婚姻件数は令和元年度より増加し、合計特殊出生率は目標を達成している。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	14. 熟年期の支援の推進

① 施策の基本目標

賑わいとゆとりを感じ、健康で世代間交流や地域社会に貢献する喜びを感じられる環境づくりを推進します。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度R3	目標との比較	達成状況(R3に評価)
62	特定健診受診率の向上(40～64歳)	%	目標		55.0	60.0	60.0	60.0	30.0	30.0	↘	
			実績	30.9	29.4	29.2	29.8	29.1	18.8			
62	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で40～74才が対象)	%	目標		33.0	34.0	43.0	43	43	43	↘	
			実績	31.8 26.5	35.3 25.8	28.0 23.0	37.8	38.3	40.5			

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度R3	目標との比較	達成状況(R3に評価)
62	メタボリックシンドローム該当者割合(男)	%	目標				30.0	30.0	30.0	30.0	↘	
			実績				32.0	32.3	30.2			
62	メタボリックシンドローム該当者割合(女)	%	目標				13.0	13.0	13.0	13.0	↘	
			実績				15.4	15.2	16.9			
62	睡眠で休養がとれている割合	%	目標				75.0	75.0	75.0	75.0	↘	
			実績				72.0	71.7	72.2			
63	地域ボランティア登録者数【再掲】	人(累)	目標		100	100	100	100	100	100	↗	
			実績	103	124	135	141	151	129			
63	凧揚げ・地引網等参加者数【再掲】	人	目標		1,150	1,200	1,200	1,200	1,300	1,300	↘	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300	1,300	44			
63	町民運動会参加団体数【再掲】	団体	目標		41	42	42	43	42	42	-	
			実績	41	36	39	38	36	-			
64	社会参加のための外出支援サービス支援利用率(下段:利用者数)【再掲】	人	目標		100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100(5)	100(7)	100(6)	100(6)	100(6)	100(1)			

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

62	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進	<p>特定健診の受診率(40～64歳)は、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言により4月13日～6月末まで集団健診の中止。7月からの再開に伴い、特定健診受診券発送者にはお知らせをしたが、受診控えのためか、受診率は伸びなかった。次年度に向けては受診率向上のため、健診カレンダーを対象世帯に配布し、予約制の周知を図る。健康診査運動習慣については、目標値を達成できなかった。今後も、運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p> <p>新たな指標として、平成30年度よりメタボリックシンドローム該当者割合と睡眠で休養がとれている割合を追加した。メタボリックシンドローム該当者割合については、男女ともに県や全国と比較しても高く、目標値に達していない。特定保健指導担当者には個別に面談や教室への誘い込みを行い、生活習慣改善に向けた保健指導の実施する。睡眠で休養がとれている割合についても、県や全国と比較して低く、目標値に達していない。睡眠時間だけではこころと体の健康は計れない面もあるが、これも一つのバロメーターという認識を持ってもらう必要がある。</p>
63	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援	<p>三世代での交流イベントへの参加はいきいを感じることでできる活動であり、就学期、成年期の取組と重複するが、新型コロナウイルス感染症の影響により凧揚げは中止となり、交流事業の参加者数は44人、町民運動会は中止となった。</p> <p>ボランティア登録数についても、成年期と重複となるが、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、目標値を大きく上回っている。主な活動支援内容は、読書ボランティア活動であり、保育所・幼稚園への読み聞かせ活動で今後も継続して行なっていくが、登録者の方々の高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている。</p>
64	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援	<p>成年期と同様に熟年期においても、社会参加のための外出支援サービスを実施しており、令和2年度は1人の利用があった。今年度はコロナウイルス感染症の影響が利用者数が少ない。移送車両等を必要としている障害者のサービス利用を促進するよう、体制を確保し整える必要がある。</p>

⑤ 基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>特定健診は自身の健康状態を確認し、健康づくりにつながる重要な健診であるが、その受診率は新型コロナウイルス感染症の影響により例年より低くなっている。熟年期は、運動習慣や健康への不安も生じる時期であり、各種健診の周知を行うことはもちろんのこと、支援や受診率の向上を図っていく必要がある。</p> <p>例年実施している各種教室や大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や参加者の減少がみられた。今後、コロナ対策を講じての実施等を行い、熟年期の世代が自ら参画し活気ある地域社会の形成の支援を図る。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	15. 高齢期の支援の推進

①施策の基本目標

健康で長生きできる環境、地域交流や世代間交流を楽しめる環境づくりによって、香南市に住んで良かったと思える、地域での支え合いのある安全・安心な環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
67	介護ボランティア参加者数 (延)	人 (累)	目標		645	670	760	760	700	700	↘	
			実績	628	711	908	825	588	520			
69	いきいきクラブ事業参加者数 (延)	人	目標		5,700	5,700	5,700	5,700	5,500	5,500	↘	
			実績	5,665	5,642	5,591	5,592	5,275	4,261			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
65	特定健診受診率の向上 (65～74歳)	%	目標		55.0	60.0	60.0	60.0	50.0	50.0	↘	
			実績	47.8	41.1	45.3	44.7	43.3	30.8			
65	口腔機能向上教室および高齢者 食生活改善栄養教室参加数	人	目標		250	250	250	90	150	160	↘	
			実績	239	246	73	95	111	32			
65	パークゴルフ・ベタンク参加者 数	人	目標		150	155	160	165	170	175	↘	
			実績	131	123	150	155	119	38			
65	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で40～74才が対象)	%	目標		50.0 44.0	52.0 45.0	43.0	43.0	43.0	43.0	↘	
			実績	47.8 40.6	45.7 43.8	44.2 39.4	37.8	38.3	40.5			
66	凧揚げ・地引網等参加者数 【再掲】	人	目標		1,150	1,200	1,200	1,200	1,300	1,300	↘	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300	1,300	44			
66	町民運動会参加団体数【再 掲】	団体	目標		41	42	42	43	42	42	-	
			実績	41	36	39	38	36	-			
67	在宅介護手当・介護用品支給 利用者数	人	目標		25	25	25	25	25	25	↘	
			実績	25	35	29	35	25	22			
68	認知症サポーター養成講座受 講者数	人	目標		150	150	450	270	270	270	↘	
			実績	390	188	441	268	261	207			
68	認知症カフェ参加者数	人	目標		50	50	550	580	450	450	↘	
			実績	47	76	499	447	345	141			
69	地域ボランティア登録者数【再 掲】	人 (累)	目標		100	100	100	100	100	100	↗	
			実績	103	124	135	141	151	129			
69	シルバー人材センター登録者 数	人 (累)	目標		255	259	264	269	250	250	↘	
			実績	255	263	228	218	213	213			

④128の施策ごとの「成果と課題」

65 健康で長生きできる環境づくりの推進	<p>特定健診の受診率(65～74歳)は、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言により4月13日～6月末まで集団健診の中止。7月からの再開に伴い、特定健診受診券発送者にはお知らせをしたが、受診控えのためか、受診率は伸びなかった。次年度に向けては受診率向上のため、健診カレンダーを対象世帯に配布し、予約制の周知を図る。健康診査運動習慣については、目標値を達成できなかった。今後も、運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p> <p>軽スポーツの推進として、パークゴルフ・ベタンクを推進しており、大会への参加者は38人で、新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数が大幅に減少し目標に至らなかった。愛好者団体への呼びかけを行っているが、それに代わる軽スポーツを検討する。</p> <p>口腔機能向上教室および高齢者食生活改善栄養教室について、新型コロナウイルス感染症の影響で教室の内容を変更し、開催した。お達者教室や自主運動グループ大会での教室再開は中止となり、参加者数は32人と例年よりも減少した。令和3年度は、お達者教室や自主運動グループ大会で、口腔機能向上メニューを取り入れ実施する。</p>
66 世代間交流を楽しみ生活文化の伝承ができる地域社会づくりの推進	<p>三世代での交流イベントへの参加はいきがいを感じることでできる活動である。地引網大会の開催が困難となっており、凧揚げ、町民運動会は令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。また、交流事業の参加者数は44人となっている。全ての世代において参加者が増加することと、高齢期については自治会等を通じてPRしていく。</p>

67 親・子・孫で支える地域社会づくりの推進
<p>高齢者のボランティア活動への積極的な参加を促すことで自身の健康増進および介護予防を推進し、生き生きと元気に暮らすことができる地域社会をつくることを目的として、介護ボランティア制度を実施しており、参加者は520人と目標値には至らなかった。新型コロナウイルス感染症の関係で、施設への出入りが制限され、定期で行っていたボランティア活動などほとんどが行えていない。また、高齢化等でボランティア活動者が少なくなり、施設側のニーズに対応できない状況もある。今後は新たなボランティアの発掘が課題となっており、市の退職者職員を対象にボランティア制度のチラシを配布し案内を行う。</p> <p>在宅介護手当・介護用品支給利用者数については、22人の利用者で目標値には達しなかった。介護対象者と介護者それぞれの課税状況が支給対象の要件にあるため対象者全体の把握は困難であるが、要介護3～5の方はケアマネージャーが関わっているため、対応漏れがないように連絡会等で情報提供をしている。</p>
68 配慮が必要な人、誰もが安心して生活できる地域社会の形成支援
<p>地域で認知症の方や家族を支援する見守り・支え合いの体制づくりを推進することを目的とした認知症サポーター養成講座を開催した。令和2年度は、207人と目標値を下回った。町づくりの研修に組み込まれたり、認知症高齢者の増加により、地域住民の関心は高くなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響で研修会が自粛されている。また、受講後活動できるキャラバンメイトの固定化が課題となっている。令和3年度は県で養成講座を実施するため、新規メイトの養成予定である。</p> <p>また、認知症カフェも直営と委託で4カ所実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、1カ所休止中であると共に、他3カ所も回数を減らしたり制限を行ったりしたため、参加者数は激減している。全体的な課題として、参加メンバーの高齢化や固定化が課題となっており、全体に向けた周知が必要である。</p>
69 地域で支え合いがあり、香南市に住んで良かったと思える環境づくりの推進
<p>介護予防への取り組みへの理解を進め、高齢者を地域で支える仕組みづくりを支援することを目的としていきいきクラブ事業に取り組んでおり、延4,261人が事業に参加したが、目標とする参加者には至らなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により、4月～5月は全地区で活動を中止したため、例年よりも参加者が減少した。令和2年10月から、外出自粛によるフレイル予防のため、体操のDVDを配布し取り組んでもらえるよう支援していく。</p> <p>また、定年後の再就職支援としてシルバー人材センターへの登録を呼びかけており、令和2年度の登録者数は213人である。近年、65～70歳といった年齢が現役で仕事をしているのが現状であり、入会してもハローワークで給料等安定した仕事が見つかると思ってしまう傾向にあることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により新規登録者数が伸びなかった。市広報等を用いたシルバー人材センターの活動の周知、新規登録者獲得の支援を継続していく。</p> <p>※いきいきクラブ・・・ 地域において介護予防に資する活動拠点の場を提供し、ボランティア等の人材の育成並びに介護予防に資する地域活動を行う組織。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">C</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>地域ボランティアは目標値を上回っているが、介護ボランティアなどは目標値を下回っている。高齢化等でボランティア活動者が少なくなり、施設側のニーズに対応できない状況もある。今後は新たなボランティアの発掘を図る。また、地域交流や世代間交流のイベントの開催においては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や人数削減になっているものもあり、目標は達成していない。</p> <p>特定健診等の受診や運動習慣については、目標値に達しておらず、引き続き運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施し、健康で長生きできる環境づくりを進める。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	16. 公園・緑地と景観形成、環境保全の整備

①施策の基本目標

市域は主に山林を有する「自然環境・山林ゾーン」と農用地等の「農業ゾーン」、市街地が集中する「市街地ゾーン」の大きく3つの地域構成に分類されます。
市民が安全で豊かな、恵まれた環境のなかで生活を営むためには、それぞれの地域で自然環境が守られることが不可欠であり、その自然環境の保全と活用に努め、人と自然の調和の取れたまちづくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
70	物部川流域の育成林の整備面積(水源の森整備事業)	ha (累)	目標		10	15	20	25	30	35	↘	
			実績	5	10	15	22.8	22.8	22.8			
70	遊休農地面積(平成30年度計画策定)	ha	目標		減少	減少	減少	減少	減少	減少	↗	
			実績	50	45	42	48	47	40			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
70	農地パトロールの実施回数	回	目標		90	90	108	108	108	108	↘	
			実績	90	90	90	100	98	93			
71	都市計画マスタープランの策定	-	目標		未策定	策定					-	
			実績	未策定	未策定	策定						
71	公園・緑地などの環境整備	回	目標		150	150	150	150	150	150	↗	
			実績	150	170	174	173	174	174			

④128の施策ごとの「成果と課題」

70 自然的土地利用と都市的土地利用の推進	<p>物部川流域の育成林の整備として水源の森整備事業(搬出間伐)を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大で木材価格が下落したため、補助対象となる森林での搬出間伐が実施せず、未実施となった。今後は搬出間伐を実施していくうえでも引き続き作業道開設や切捨間伐等に重点を置き、新型コロナウイルス感染症に左右される木材価格を見すえながら搬出間伐を実施していく。</p> <p>農地パトロール実施回数を93回実施し、目標値には至らなかったが、遊休農地の実態把握及び発生防止等に努めた。</p> <p>また、遊休農地の面積は令和2年度は前年度より7haの減少があった。今後、高齢化等により耕作を放棄する農家が増加することも予測され、関係機関と協力して県内外の就農相談会に参加したり、親元就農の情報を集め、新規就農者の掘り起こしを行っていく。また、経営の不安定な新規就農者に対して関係機関とサポートチームを作り、経営・栽培の両面で支援を行っていく。</p>
71 緑豊かな都市空間の創出	<p>平成28年度から取り組んでいた『都市計画マスタープランの策定』については、平成29年度に策定を行っている。都市計画マスタープランでは、まちづくりの理念や都市計画の目標とあわせて、全体構想・地域別構想を定めており、今後はマスタープランにそった都市空間を創出していく。</p> <p>公園などの環境整備として、除草作業や公園遊具の修繕等を行った。今後も、環境整備を図り、市民に親しみやすい、市民が集まる公園整備に努めていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>都市計画マスタープランの策定により、香南市の土地利用の基本的な方向性が定められた。今後は、人と自然の調和の取れたまちづくりを目指して、マスタープランに基づき事業の計画と実施を図っていく。適正な自然的土地利用が図られるよう、育成林の整備や耕作放棄地の解消に努め、一定の成果は得られているが、自然環境や耕作地の荒廃を防ぐため、さらなる対策を図っていく。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	17. 水質保全等活用保全の推進

①施策の基本目標

水資源は、市民の生活にとっても、また、動植物の生態系や地盤、土地などの形成にとっても大切な自然資源です。その水資源は、河川、ため池、地下水が主なものであり、その利用は、生活用水、農業用水、工業などの産業用水が主なものとなっています。処理や利活用しているそれら水資源は、降った雨が元になっていることから降雨に対する考え方を明らかにし、その処理や利活用、保全に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
73	汚水処理人口普及率	% (累)	目標		93.7	94.2	94.9	95.6	96.3	97.0	↘	
			実績	93.2	93.9	90.2	94.8	93.6	93.6			
73	合併浄化槽設置補助基数	基	目標		80	80	80	80	80	80	↘	
			実績	69	66	63	72	72	54			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
72	農業水路の修繕に関する補助件数	件	目標		20	20	20	20	20	20	↘	
			実績	16	25	25	17	29	19			
72	国・県への河川整備要望行動	回	目標		3	3	3	3	3	3	↗	
			実績	3	3	3	4	4	4			
72	工業用水条件整備事業箇所整備進捗率	% (累)	目標		90.0	93.0	95.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	87.0	88.0	90.0	91.8	92.0	92.0			
73	農業集落排水の加入率	% (累)	目標		60.0	61.0	61.0	62.0	62.0	63.0	↗	
			実績	59.9	61.5	60.6	62.9	64.6	65.0			
73	簡易水道施設の更新件数	件	目標		5	5	統合	2	統合	統合	→	
			実績	11	7	6	未統合 ₂	2	統合			
73	汚水処理区域整備面積	ha	目標		3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	↘	
			実績	5.0	1.2	6.2	0.0	0.0	4.0			

④128の施策ごとの「成果と課題」

72 治水・利水整備の促進	水路(青線)の修繕に関する補助件数は目標の20件に対し、19件の実績があった。国・県への河川整備要望行動については目標3回に対し、4回行い、今後も継続して要望していく。 また、工業用水条件整備事業の整備進捗率は、目標値には至っていないが、ほぼ計画どおり事業は実施できている。
73 生活関連水の処理の整備	汚水処理人口普及率は93.6%で目標値には至っていないが、ほぼ計画どおりとなっている。また、合併浄化槽の補助基数は54基となり、目標には至っていないが、申請のあったものについては補助できている。改善策として、浄化槽の補助金システムのPR及び下水道の面整備を進める。 農業集落排水の加入率については目標値を上回り、こちらもほぼ目標どおりとなっている。簡易水道施設については、令和2年度に上下水道事業に統合した。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>水資源の確保の第1歩として、水路や河川の改修が必要不可欠であり、改修や要望活動はおおむね計画どおりに行っている。 汚水処理人口普及率は、目標に至っていない。また、合併浄化槽の設置補助も目標には至っていないが、申請分についてはすべて補助を完了している。 水道事業についてはH30年3月に策定した水道事業の経営戦略をふまえ、今後、香南市水道事業基本計画(老朽施設対策及び地震対策計画など含む)を基に、良好な水道水の安定供給を図っていく。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	18. 交通網体系の整備

① 施策の基本目標

豊かな自然に恵まれた市域で、元気で活力ある市民生活や市民活動が営まれるためには、交通や物流あるいは人と人との交流を支える骨格交通網が不可欠となります。
そのため、人口規模や産業規模に見合った道路網計画や公共交通などを構築する必要があり、幹線道路や生活道路を含めた道路網の整備や公共交通サービスの充実を図ります。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
75	市営バス利用者数	人	目標	38,066	38,500	39,000	40,000	40,000	40,000	40,000	↘	
			実績	38,066	39,287	38,369	35,862	35,238	30,126			

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
74	緊急輸送路・避難路としての橋梁整備箇所	橋	目標	2	2	2	2	2	1	1	→	
			実績	2	0	1	1	0	1			
74	老朽化・損傷に対する市道修繕箇所	箇所	目標	12	12	12	12	12	12	12	↗	
			実績	12	60	64	77	75	71			
75	ごめんなはり線利用者数(市内5駅の乗車数)	人	目標	-	-	-	-	-	-	-	↘	
			実績	343,718	325,969	329,505	334,895	335,105	278,414			

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

74 道路網の整備	緊急輸送路・避難路としての橋梁整備については、現在のところは橋梁の整備を優先しており、市道の整備までには至っていない。橋梁については、令和2年度は香我美町の田野々橋の整備を行った。 市道の老朽化・損傷については、小規模のものまで含めると71箇所の修繕を行った。
75 公共交通の充実	市営バスについては、3年に1度の頻度で路線とダイヤの改正を行っており、直近では令和2年10月に改正を行った。改正においては、利用者アンケートやヒアリング調査、各地区での意見交換会等を実施し、市営バス検討委員会及び地域公共交通会議で協議を重ね、便数やダイヤの調整、路線を12路線から14路線に増やし公共交通空白地区の解消を図る等、利便性の向上に努めた。また、令和2年度は、市内在住の65歳と75歳の方へ市営バスお試しセットの配布や地区での説明会等の利用促進、時刻表の刷新やのいち駅及び夜須駅への案内板設置等の情報発信も行った。 令和2年度の市営バスの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり30,126人と昨年度より減少しており、H28年度以降減少傾向である。ごめんなはり線については、毎年の目標値は定めていないが、ごめんなはり線活性化協議会の集計データ(5駅の乗車数)を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響もあり利用実績は減少しており、278,414人の利用となった。新型コロナウイルス感染症対策として運転手の体調管理、運行車両の定期的な喚起を継続的や消毒を継続的に実施する。 今後は、感染症の影響もあり利用者が減少しているなかで、市民が安心して住み続けることができる利便性の高い公共交通体系を構築していくとともに、公共交通サービスの重要性や取組について広報での周知を行う等、利用することで公共交通を維持していくという市民意識の養生に向けた情報発信も積極的に行っていく必要がある。

⑤ 基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>緊急輸送路・避難路としての市道整備は行っていないが、橋梁の整備については計画を立てて実施している。老朽化・損傷に対する修繕については必要に応じて実施した。 公共交通サービスについては、市営バスでは利用者アンケートやヒアリング調査、お試しセットの配布等の取組を積極的に行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が例年より減少した。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	19. 保幼小中連携の推進

①施策の基本目標

保育所、幼稚園、小中学校が連携し、0歳から15歳までの15年間を通して、子どもの発達段階に応じた系統的な教育を進めることで、コミュニケーション能力、規範意識及び自尊感情等を身に付けた子どもたちを育成するとともに、親の子育てを支援していきます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
76	交流活動を組織として位置づける (よくできた、できたの回答割合)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	↘	
			実績	31.0	31.0	41.0	52.0	-	68.0			
76	交流活動の際、育てたい力の共通 理解(よくできた、できたの回答割 合)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	↘	
			実績	51.0	51.0	56.0	56.0	-	50.0			

※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
76	連携担当者会の実施	回	目標	/	2	2	2	2	2	2	↘	
			実績	2	2	2	2	2	1			
76	小学校教諭による保育士体 験の実施	校	目標	/	8	8	8	7	7	7	-	
			実績	8	8	8	8	7	-			

④128の施策ごとの「成果と課題」

76 保幼小中連携(一貫)教育の推進

「交流活動を組織として位置付ける」は、目標値に達成していないが以前と比較すると向上している。一方、「交流活動の際、育てたい力の共通理解」については大きく目標値に達成していない。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う年度当初の学校の臨時休業により、年度当初に行っている各中学校区の合同研修会(総会)が実施できなくなったため、交流活動を含めた連携の取組について、確認が取れない状況が生じたことが実績数値に繋がっていると考えられる。臨時休業後も活動そのものを中止したり、実施できたとしても、制限をかけた、規模を縮小したりするなど、過年度並みの交流は困難な状況であった。年間2回の実施を予定していた連携担当者会は1回の実施となり、小学校教諭による保育士体験も中止となった。

来年度は、感染症拡大防止に最大限努めながら、ICT機器を十分に活用して、まずは令和元年度ベースの取組に戻していきたい。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>教職員を対象としたアンケートの結果では、いずれも目標に達していないが、コロナ禍の状況で各中学校区では年間計画を変更しながらできる取り組みを実施している。今後もアンケート結果から改善に向けた取り組みが必要である。また、小学校教諭による保育士体験は実施しておらず、連絡担当者会は1回の実施となっており、目標には至っていないが、情報の共有を図っている。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	20. 家庭や地域と連携した教育の推進(チーム学校の取組)

①施策の基本目標

家庭生活の困窮等で厳しい環境にあり、学力や基本的な生活習慣の未定着など、子どもたちを取り巻く負の連鎖環境を教育によって断ち切ることをめざします。不登校の児童・生徒に対しては、関係機関と連携を図りながら、改善に向けて取組を推進します。家庭や地域社会が、子どものしつけや基本的な生活習慣の確立等の教育基盤となる役割をしっかりと担うとともに、子どもを守り育てる地域住民の連帯感を再構築し、子どもたちが家庭や地域の豊かな愛情のなかで安心して成長できる地域コミュニティの実現をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
77 81	子育て親育ち講演会への参加者数	人	目標	/	600	610	620	630	640	650	↘	
			実績	596	687	442	549	545	284			
79 81	不登校児童・生徒の割合(小学校)【再掲】	%	目標	/	0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↘	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62	1.05	1.06			
79 81	不登校児童・生徒の割合(中学校)【再掲】	%	目標	/	6.38	5.00	4.50	4.00	4.00	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41	4.86	5.01			
80	こうなんファミリーサポートセンター会員数(平成28年度開始)	人(累)	目標	/	30	50	80	110	90	100	↗	
			実績	-	42	56	74	86	102			
80	地域学校協働本部設置校数【再掲】	校(累)	目標	/	5	6	7	8	11	11	→	
			実績	4	5	6	7	11	11			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
77	香南市チャレンジ塾の開設数	教室	目標	/	2	2	2	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2	2	2			
78	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	-	
			実績	50.0 75.0	100.0	100.0	100.0	50.0	57.1 50.0	- -		
78	言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	85.0	85.0	85.0	100.0	100.0	100.0	-	
			実績	75.0 50.0	100.0	100.0	100.0	62.5	14.3 25.0	- -		
80	市のHP(子育て情報サイト)のアクセス数【再掲】	回	目標	/	3,000	4,000	5,000	6,000	9,000	9,000	↘	
			実績	着手	1,826	4,328	6,031	9,063	8,798			
80	コミュニティ・スクール設置数	校	目標	/	0	0	1	3	3	11	→	
			実績	0	0	0	1	3	3			
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(3歳児)	%	目標	/	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9	96.5	96.4			
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(小学6年生)	%	目標	/	88.0	89.0	90.0	92.0	94.0	96.0	↗	
			実績	87.3	97.3	85.9	96.6	98.1	95.7			
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(中学3年生)	%	目標	/	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	↗	
			実績	83.7	83.7	82.7	92.0	93.4	93.2			
82	放課後児童クラブの利用者数【再掲】	人	目標	/	340	385	385	385	385	450	↗	
			実績	336	362	375	370	390	397			
82	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数	回	目標	/	6	6	6	6	6	6	↗	
			実績	6	6	6	5	11	7			

④128の施策ごとの「成果と課題」

77 厳しい環境にある子どもたちへの支援

子育て親育ち講演会として、香南市の所・園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者に向けた講演会を実施した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、講演会の開催回数及び参加者数が減少した。今後、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、保護者の参加数を増やせるよう、就学前の子育て世代にとって関心・ニーズの高い内容の構成と周知についても工夫が必要である。
香南市チャレンジ塾は2教室開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、塾生の人数を制限する必要があった。今後は感染症対策をした上で、教室数を増やすための参加募集の工夫や支援員の確保が課題となる。

<p>78 学校の組織マネジメント力の強化</p>
<p>学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門員や地域の人材の力を活用しながら取組を推進している。また、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導を行うことや、学級経営の状況や課題、または学力傾向や課題について、全小中学校において、全教職員の間で共有し組織的に取り組んでいる。令和2年度は、指標を図るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値はないが、来年度も県指定事業、市担当者会等を活用し、改善に向けた取組を進めていく。</p>
<p>79 不登校の改善</p>
<p>「魅力ある学校づくり」に向け、市内各校で担当者を中心に不登校児童・生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を進めることができた。また、不登校児童生徒に対しては、学校、SC、SSW、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。</p> <p>不登校児童生徒の発生率について、小学校については1.06%と少し増加している。全ての小学校で「魅力ある学校づくり」に向けた取組を実施したが、不登校生徒を無くすという課題は解決には至っていない。引き続き、各学校で「魅力のある学校づくり」に向けた取組を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止に取り組む。中学校においても、昨年度より増加し5.01%であった。全ての中学校でも「魅力ある学校づくり」に向けた取組を実施し、不登校児童が出ない取り組みを行った。PDCAシートを使った話し合いを行い、新たな不登校を生まない未然防止の取組が必要である。また、教員の同僚性・関係機関の連携等を生かした継続的な取組を推進する。</p>
<p>80 子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築</p>
<p>平成28年度からこうなんファミリーサポートセンター事業を実施し、子育てを住民同士が協力・支援していく体制を進めており、「おねがい会員」と「まかせて会員」を合わせた会員数は102人と目標数に達している。今後も社会福祉協議会と協働し、子育てに関して経験豊富な保育士OBに声かけを行うなど受け皿となる「まかせて会員」の確保に努める。</p> <p>地域学校協働本部は令和元年度に目標を達成し11校すべての小中学校で設置できている。協働本部では、地域の人材を積極的に活用し、地域と学校とが連携・協働し、授業支援や放課後学習支援、登下校見守り、周辺環境整備等を実施し、地域の見守り体制の強化に繋がっている。コロナ禍のなかで、地域の中での見守り等、接触が少なく多人数の対面ではない場面の工夫や積極的な情報発信等により、地域と学校の協働関係を維持していくことが重要である。</p> <p>平成28年度に開設した、子育て情報サイトへのアクセス数は8,798件あった。登録された子育て世帯には、メルマガとして「エプロンだより」と「すこやか通信」をメール配信し、子育てに関するタイムリーな情報も提供している。今後、多くの場面で今まで以上に啓発活動に努めるとともに、関連する部署と連携し内容の充実を図っていく。また、メルマガ配信内容の工夫を図るとともに、ユーザーにマッチした情報発信に取り組むため、ホームページ「香南キッズ」のリニューアルを行う。</p> <p>コミュニティ・スクールの設置については、赤岡小に加え、野市小と赤岡中が実施している。3校以外の学校については、コミュニティ・スクール設置に向けて準備していく。また、学校評議員の仕組みから学校運営協議会に移行していけるように、規則等の整備を行っていく。</p>
<p>81 家庭の教育力の向上</p>
<p>子育て親育ち講演会への参加者数について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、講演会の開催回数及び参加者数が減少した。今後、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、保護者の参加数を増やせるよう、就学前の子育て世代にとって関心・ニーズの高い内容の構成と周知についても工夫が必要である。また、不登校児童・生徒の割合についても目標値には至らなかったが、「魅力ある学校づくり」に向け、市内各校で担当者を中心に不登校児童・生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を進めることができた。</p> <p>毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、対象の内、3歳児が目標達成には至らなかった。今後も、保育所、幼稚園、食生活改善推進協議会、子育て支援センターと連携して食育事業を実施することや乳幼児健診では個別相談に応じ、状況に応じた支援を行う。小学6年生・中学3年生においては、目標値を達成している。今後も継続的に教科場面での指導、保健指導、食育指導等の様々な機会を通して、児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、実践に結び付けるようにする。また、各種通信等も活用し、保護者等にも継続的に啓発を行っていく。</p>
<p>82 放課後の子どもの生活・学習支援の充実</p>
<p>児童クラブを6小学校10か所で開催し、共働き家庭等の児童(1～6年生)を放課後から18時(一部18時30分)まで預かり、令和2年度は397人の利用があった。待機児童の生じていた野市小・香我美小で放課後児童クラブの新設工事を行ったことで、令和3年度に向けての施設環境を整えることができたが、受け皿となる支援員の確保が最重要課題となっている。今後、ハローワークや広報誌などの媒体を使った情報発信をはじめ、現在勤務している支援員や児童クラブを利用している保護者へ支援員募集を呼びかけるなど、あらゆる手段を講じて求人開拓を行っていく。</p> <p>市及び県主催の7回の研修会に参加した。支援員及び補助員が職務を遂行する上で必要な知識及び技能の習得と、その実践の基本的な考え方や心得を学ぶことができた。今後も支援員のさらなる資質向上及びスキルアップを図っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>不登校の改善について、数値としてはまだまだ十分な成果に至っていない。すぐに効果が出るものではないが、引き続き、学校や関係機関と連携を図りながら、全ての子どもが安心できる環境づくりに努めていく。また、朝食の摂取率はおおむね目標を達成しており、今後も保護者や児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、向上を図る。</p> <p>すべての学校に地域学校協働本部が設置できている。来年度以降も、すべての学校へのコミュニティ・スクール設置を目指し、地域と学校の連携・協働を一層進めていく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	21. これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

①施策の基本目標

「香南市乳幼児教育政策プログラムⅡ」に基づき、生涯にわたる人格形成の基礎となる豊かな心情・意欲・態度を育むための保育・教育活動を保護者と連携して推進します。
 子どもたちに生きて働く「知識・技能」を習得させ、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を推進するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善に努めます。
 また、生涯にわたって健康でいきいきとした生活をおくるため、家庭や地域と連携して就学前からの望ましい生活習慣、食習慣、運動習慣を確立するための健康教育や障害のある児童生徒の能力や可能性を十分に伸ばすために、関係機関と連携を図りながら、一人ひとりの発達や障害の種別等に応じた特別支援教育を推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
83	地域子育て支援センター利用者数	人	目標	/	5,200	5,800	6,400	7,000	10,800	10,800	↘	
			実績	4,811	4,542	8,171	8,436	11,175	10,197			
84	ICT機器を活用した校内授業研修の実施	%	目標	/	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
87	いじめが解消した割合 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0 90.0	70.0 90.0	75.0 90.0	80.0 90.0	90.0 92.0	90.0 92.0	↘	
			実績	67.3 90.9	64.1 66.7	79.1 77.0	96.8 63.9	93.4 49.4	76.6 76.3			
88	肥満傾向率(小学5年生)	%	目標	/	12.0	11.8	11.5	11.1	11.0	10.0	↘	
			実績	12.5	10.7	8.9	11.0	11.5	16.8			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
83	市職員研修及び園内研修の実施回数	回	目標	/	52	52	52	52	52	52	↘	
			実績	52	44	62	52	63	51			
84	言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)【再掲】	%	目標	/	85.0 75.0	85.0 75.0	85.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	-	
			実績	75.0 50.0	100.0 100.0	100.0 100.0	62.5 50.0	14.3 25.0	- -			
84	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	50.0 80.0	60.0 80.0	70.0 85.0	80.0 90.0	90.0 95.0	100.0 100.0	-	
			実績	37.5 75.0	37.5 75.0	25.0 50.0	50.0 75.0	100.0 100.0	- -			
85	自分にはよいところがあると思うか(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	↗	
			実績	77.7 61.1	80.4 67.8	76.5 65.8	88.8 79.8	88.5 63.6	83.4 75.3			
85 86	将来の夢や目標を持っているか(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	90.0 77.0	95.0 77.0	↘	
			実績	89.4 79.1	89.4 74.1	72.1 75.0	88.4 74.7	88.8 76.8	85.2 80.2			
87	人権教育について計画的に実施することができた学校数(割合)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(3歳児)【再掲】	%	目標	/	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9	96.5	96.4			
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(小学6年生)【再掲】	%	目標	/	88.0	89.0	90.0	92.0	94.0	96.0	↗	
			実績	87.3	97.3	85.9	96.6	98.1	95.7			
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(中学3年生)【再掲】	%	目標	/	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	↗	
			実績	83.7	83.7	82.7	92.0	93.4	93.2			
88	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数(割合)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	63.0			

89	個別の指導計画書を作成した保 幼小中の割合(上段:保幼・中段: 小学校・上段:中学校)	%	目標	100.0 70.0 50.0	100.0 80.0 70.0	100.0 90.0 80.0	100.0 100.0 90.0	100.0 100.0 100.0	100.0 100.0 100.0	→		
			実績	100.0 60.0 28.3	100.0 80.4 29.3	100.0 60.6 30.1	100.0 86.0 36.8	100.0 92.5 88.6	100.0 - -	- -		
89	スマイルサポート支援ファイル及び支 援シートを活用した引きつぎの実 校数(割合)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

④128の施策ごとの「成果と課題」

83 就学前教育の充実											
<p>職員研修や園内研修の実施については51回開催した。年間を通じた研修会実施により研修を積み上げ、園内での成果と課題を共有し、組織で保育を作る意識の高まりと保育者の質の向上につながった。引き続き主体的な研修の実施を行いながら、保育・教育の質の向上につなげていく。</p> <p>総合子育て支援センター「にこなん」及び出張ひろば4ヶ所では、妊婦や0歳から就学前の子どもと保護者等を対象に、育児相談や交流の場の提供、子育て関連情報の提供などの子育て支援を行っており、「にこなん」で10,197人、出張ひろばで665人の利用があった。コロナ禍で4、5月に開所できなかったことや、6月以降も利用人数制限をしたうえでの開所であったにも関わらず、目標値を大きく下回ることはなかった。引き続き、利用者の増加を図るとともに、支援が低下することなく、子育て家庭への専門性を生かした総合的な支援ができる拠点施設となるように努める。</p>											
84 確かな学力の育成											
<p>ICT機器の導入については、各学級に大型モニター、授業者用タブレットの配置により、主にデジタル教科書を用いたICT機器を活用した授業を展開している。小学校においてはプログラミング教育推進のための校内研修、及び授業実践が全ての学校で実施されている。GIGAスクール構想に伴い一人一台端末が整備することとなり、教職員のICT機器活用スキルの獲得が急務である。使用することが目的化しないよう、効果的な活用を趣旨として活用できるような研修会等を企画していく。</p> <p>言語活動に関する実績については、令和2年度は、指標を図るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定である。新型コロナウイルス感染症への対応や若年教員の増加等に伴い、おそらく「よく行っている」という強肯定ほどの認識が持てないと予想される。引き続き、各学校の授業スタンダードに基づいた授業実践の際の徹底を図る。</p>											
85 豊かな心の育成											
<p>「自分にはいいところがあると思うか。」の質問について、令和2年度は、指標である全国学力・学習状況調査が中止となったが、同年度実施された高知県児童生徒学習状況調査にて同項目が設定されていたため、その結果を記載。令和3年度の目標数値に対して小中学校共に達成している状況であるが、今後も新型コロナウイルス感染症への対応や若年教員の増加等の状況が続くことが予想されることから、引き続き、授業スタンダードに基づく、生徒指導の三機能が発揮された授業実践を図る。</p> <p>「将来の夢や目標を持っているか。」の質問に対しては、小学校は目標値を下回っているが、中学生は上回っている。校外学習(社会見学、生産者との交流等)や職場体験学習の実施しており、社会に開かれた教育課程を念頭に、総合的な学習の時間等も活用しながら地域社会とつながる機会を増やすとともに、これまでの取組を継続させる。なお、指標である令和2年度の全国学力・学習状況調査は中止となったが、高知県児童生徒学習状況調査にて同項目の調査が実施されたため、その数値を指標として用いる。</p>											
86 キャリア教育の推進											
<p>キャリア教育の視点も踏まえ、将来の夢や希望を持たせ、進路指導にもつなげることを意図し、校外学習(社会見学、生産者との交流等)や職場体験学習の実施している。社会に開かれた教育課程を念頭に、総合的な学習の時間等も活用しながら地域社会とつながる機会を増やすとともに、これまでの取組を継続させる。なお、指標である令和2年度の全国学力・学習状況調査は中止となったが、高知県児童生徒学習状況調査にて同項目の調査が実施されたため、その数値を指標として用いる。</p>											
87 人権教育の推進											
<p>各学校では、講師やテーマを変えながら人権教育年間指導計画に合わせた実践を計画的に実施することができた。課題として、若年経験者教師の相対的な増加もあるため、児童生徒に身に付けさせたい力及び単元を通したゴールイメージをもった授業の展開に向けて組織的な取組が必要である。</p> <p>いじめが解消した割合について、日頃から子どもたちの様子に目を向けるとともに、「問題行動調査」によって実態を把握している。調査することで学校や教育委員会の問題意識を高め、未然防止や早期対応の取組を行っている。いじめの解消のためには、早期発見がカギとなる。教員はいじめに対するアンテナを張り、子ども間の変化を敏感にキャッチできるようにさらに意識を高めていくことが課題である。</p>											
88 健やかな体の育成と健康の増進											
<p>肥満傾向率は、増加しており、基本的な生活習慣と運動習慣の確立に向け、今後も継続的に取組を行っていく。体育・保健体育科の授業において、運動量が確保された授業づくりを目指す。</p> <p>毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、対象の内、3歳児が目標達成には至らなかった。今後も、保育所、幼稚園、食生活改善推進協議会、子育て支援センターと連携して食育事業を実施することや乳幼児健診では個別相談に応じ、状況に応じた支援を行う。小学6年生・中学3年生においては、目標値を達成している。今後も継続的に教科場面での指導、保健指導、食育指導等の様々な機会を通して、児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、実践に結び付けるようにする。また、各種通信等も活用し、保護者等にも継続的な啓発を行っていく。</p> <p>地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校については、新型コロナウイルス感染症の影響による制限が生じたため、小学校6校、中学校1校のみの取り組みとなったが、食育改善委員やJAの方に来ていただき、お弁当作りや朝食作りに取り組むことができた。また、地域学校協働本部事業を活用し、地域の方による朝食作りに取り組んだ学校もあった。</p>											
89 特別支援教育の推進											
<p>個別の指導計画を保育所・幼稚園は100%作成し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した特別支援教育を進めた。引き続き支援の必要な園児についてはもれなく個別指導計画を作成していく。小学校・中学校については、新型コロナウイルス感染症の影響で「体制整備状況調査、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する状況調査」を実施していないため、数値は未定である。</p> <p>スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引きつぎは全ての学校で実施でき、関係者間の情報および認識の共有化、教育支援の円滑な意向ができた。教育支援計画との関連性を検討し、より効果的なものにしていく必要がある。</p>											

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見	
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>豊かな心情・意欲・態度を育むための保育・教育活動を保護者と連携して取り組んでいるが、アンケート結果から、まだ将来の夢や目標を持っていない子どもたちがいることから、今後も地域社会とつながる機会を増やすとともに、これまでの取組を継続させる。また、いじめが解消した割合も、小学校、中学校とも目標値には至っていないが、実態の把握、未然防止や早期対応の取組を行っており、引き続き人権教育の推進を図る。</p> <p>地域子育て支援センターやICT機器の活用、職員研修・人権教育の実施などは、目標に近い実績となり、子育てや教育の環境の充実は図られている。</p>	

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	22. きめ細かな教育の推進

①施策の基本目標

教育課題の解決のために、保育や教育の専門的知識を一層深めるとともに、広く豊かな教養と実践的指導力を高めるなど、教職員の資質・指導力の向上に努めます。
 保育所、幼稚園、学校が地域の教育力を生かし、創意工夫した教育活動を展開することにより、保護者や地域から信頼される保育所、幼稚園、学校づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
90	授業の内容が良くわかると回答した児童生徒の割合(国語) (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	85.0 65.0	85.0 70.0	85.0 70.0	85.0 70.0	85.0 70.0	85.0 70.0	-	
			実績	85.0 63.7	87.7 79.8	85.1 71.0	- -	94.1 68.1	- -			
90	授業の内容が良くわかると回答した児童生徒の割合(算数・数学) (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	87.0 65.0	87.0 67.0	87.0 68.0	87.0 69.0	87.0 70.0	87.0 70.0	-	
			実績	87.1 60.3	88.7 79.8	82.9 56.5	88.0 65.0	89.6 71.0	- -			
91	地域学校協働本部設置校数 【再掲】	校 (累)	目標	/	5	6	7	8	11	11	→	
			実績	4	5	6	7	11	11			
92	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	88.0 75.0	90.0 79.0	90.0 80.0	90.0 80.0	90.0 80.0	90.0 80.0	↗ ↘	
			実績	86.4 72.9	89.7 78.7	84.3 75.4	91.7 85.9	91.0 71.8	91.5 87.0			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
91	保育所・学校評議員連絡会 (中学校区)の開催数	校区	目標	/	2	2	3	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2	1	1			
91	コミュニティ・スクール設置数 【再掲】	校	目標	/	0	0	1	3	3	11	→	
			実績	0	0	0	1	3	3			
92	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合【再掲】 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	-	
			実績	50.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	50.0 75.0	57.1 50.0	- -			
93	不登校児童・生徒の割合(小学校)【再掲】	%	目標	/	0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↘	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62	1.05	1.06			
93	不登校児童・生徒の割合(中学校)【再掲】	%	目標	/	6.38	5.00	4.50	4.00	4.00	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41	4.86	5.01			

④128の施策ごとの「成果と課題」

90 教職員の専門性・指導力の向上	<p>県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、校内研修、教科会・チーム会等で協働して取組を進めてきている。</p> <p>令和2年度は、指標を図るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定である。今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。</p>
91 保育所・学校運営の充実	<p>地域学校協働本部は令和元年度に目標を達成し11校すべての小中学校で設置できている。協働本部では、地域の人材を積極的に活用し、地域と学校とが連携・協働し、授業支援や放課後学習支援、登下校見守り、周辺環境整備等を実施し、地域の見守り体制の強化に繋がっている。コロナ禍のなかで、地域の中での見守り等、接触が少なく大人数の対面ではない場面の工夫や積極的な情報発信等により、地域と学校の協働関係を維持していくことが重要である。</p> <p>保育所・学校評議員連絡会について、夜須小学校と夜須中学校は合同で開催したが、他の中学校区では開催していない。香南市保育所・学校評議員連絡会として平成29年度までは中学校区ごとの意見交換の場を設けていたが、学校規模の違いなどから協議が難しいとの意見が出たことから平成30年度から協議の時間を設けていない。小・中学校については、令和3年度から学校運営協議会に移行する予定である。</p> <p>コミュニティ・スクールの設置については、赤岡小に加え、野市小と赤岡中が実施している。3校以外の学校については、コミュニティ・スクール設置に向けて準備していく。また、学校評議員の仕組みから学校運営協議会に移行していけるように、規則等の整備を行っていく。</p>

92 生徒指導の充実
<p>学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門員や地域の人材の力を活用しながら取組を推進している。また、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導を行うことや、学級経営の状況や課題、または学力傾向や課題について、全小中学校において、全教職員の間で共有し組織的に取り組んでいる。令和2年度は、指標を図るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定だが、来年度も県指定事業、市担当者会等を活用し、改善に向けた取組を進めていく。</p> <p>平成30年度に受けた「魅力ある学校づくり調査研究事業」を今年度も引き続き、市独自で全小・中学校で取組を進めてきた。各校の担当者を中心にPDCAシートを作成し、新たな不登校を生まない未然防止に向け、すべての児童生徒にとって「心の居場所」「絆づくりの場」となる学校を目指して取り組んでいる。目標値は達成しているが、学級・学年によっては偏りが見られるので、今後も連携を図り取組を進めていく必要がある。</p>
93 教育相談・支援体制の充実
<p>「魅力ある学校づくり」に向け、市内各校で担当者を中心に不登校児童・生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を進めることができた。また、不登校児童生徒に対しては、学校、SC、SSW、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。</p> <p>不登校児童生徒の発生率について、小学校については1.06%と少し増加している。全ての小学校で「魅力ある学校づくり」に向けた取組を実施したが、不登校生徒を無くすという課題は解決には至っていない。引き続き、各学校で「魅力のある学校づくり」に向けた取組を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止に取り組む。中学校においても、昨年度より増加し5.01%であった。全ての中学校でも「魅力ある学校づくり」に向けた取組を実施し、不登校児童が出ない取り組みを行った。PDCAシートを使った話し合いを行い、新たな不登校を生まない未然防止の取組が必要である。また、教員の同僚性・関係機関の連携等を生かした継続的な取組を推進する。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>教職員の専門性・指導力の向上を図るために、各主任・担当会や話し合いなど授業研究を中心にした授業改善に取り組んでいる。</p> <p>「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合は前年度より増加し目標を上回っており、香南市全体で新規不登校数の抑制のための取組「魅力ある学校づくり調査研究事業」等から、成果が出ていると思われる。今後も、児童生徒の理解を深め、学校に行くのが楽しくなるような温かい学級・学校づくりに取り組んでいく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	23. 安全な教育環境での教育の推進

①施策の基本目標

地震等による災害の発生時に、迅速かつ適切な対応ができる危機管理体制の整備・充実を図り、子どもたちの安全確保と保育所、幼稚園、学校の安全管理に努めます。また、子どもたちの事故や事件を未然に防止するための教育を推進します。校舎等の耐震補強や改修、教材の整備などについて積極的に取組、子どもたちが安心して学べる環境整備に努めます。また、教育施設等における遊具等の点検・補修等、施設の安全確保に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
95	小・中学校における非構造部材の耐震化	% (累)	目標	/	50	75	91.7	100	100	100	→	
			実績	50	58.3	83.3	83.3	90.9	100			
95	小・中学校におけるトイレの洋便器化	% (累)	目標	/	75	75	100	100	100	100	→	
			実績	50	66.7	66.7	83.3	100	100			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
94	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100	100			
94	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100	100			
95	通園・通学路の点検を定期的 に実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100	100			
95	学校内の施設等に関する安全点検が定期的 に実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100	100			

④128の施策ごとの「成果と課題」

94 防災教育等の推進	<p>防災教育に対する意識は年々高まっており、避難訓練においても、緊急地震速報を活用したり、授業中、休み時間、登下校中等多様な状況設定の下で、年間3回以上実施している。各学校の実態に適した、より実践的な訓練、高い当事者意識を持った児童生徒による避難訓練の実施に向け、発展継続させた取組が必要である。</p> <p>また、年度当初の教育計画に防災教育の年間計画を位置づけ、学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の授業を実践している。児童生徒が当事者意識を持てるような防災教育、関係機関と連携した総合的防災教育の展開を目指す。</p>
95 保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備	<p>非構造部材の耐震化を行っており、令和2年度に野市小学校の非構造部材耐震化Ⅱ期工事が完了した。これにより市内全ての小・中学校における非構造部材の耐震化が完了した。今後は個別施設計画に基づき、適正な施設管理を行い、修繕や改修等を要した場合は速やかに対応する。トイレの洋便器化については、令和元年度に野市中学校の洋便器化が完了し、目標値に達した。適正な管理を行い、修繕等を要した場合は速やかに対応する。</p> <p>また、小・中学校では、年1回通学路の安全点検を実施し、危険箇所については香南市通学路安全対策連絡協議会で合同点検を行い対策を講じた。学校内の施設等については、教職員による安全点検を月1回実施し、安全確保に努めた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>全ての学校で防災教育を中心とした取組が行われ、防災や交通安全についての意識が高まった。児童生徒が当事者意識を持てるような防災教育、関係機関と連携した総合的防災教育の展開を目指す。</p> <p>小・中学校における非構造部材の耐震化、トイレの洋便器化は目標を達成しており、保育・教育の場の環境整備が図れた。また、通園・通学路の点検、学校内の施設等に関する安全点検も定期的 に実施できている。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	24. 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

①施策の基本目標

市民が生きがいを見つけ自己実現を果たすため、各年代に応じた様々な学習機会を提供するとともに、情報の提供・相談機能の強化、指導者の育成・人材活用を行います。
また、地域住民の交流・地域活動の場としての施設の整備改修を計画的に進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
96	夏休み子ども教室の開催	講座	目標		22	23	24	25	25	25	-	
104	(講座数)		実績	21	25	25	25	29	-			
96	夏休み子ども教室の開催	人	目標		290	300	300	310	400	400	-	
104	(参加者)		実績	299	391	433	381	358	-			
97	生涯学習人材バンクの登録者数	人 (累)	目標		0	50	100	150	200	200	↘	
103			実績	0	0	1	22	28	28			
99	図書館の入館者数	人	目標		72,000	74,500	76,000	77,500	79,000	80,200	↘	
			実績	68,825	72,000	71,131	72,685	64,831	44,425			
99	図書館の貸出冊数	冊	目標		121,000	126,500	125,500	127,500	129,000	130,000	↘	
			実績	116,714	111,144	114,523	116,336	109,339	107,577			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
96	三世交代事業参加者数(風揚げ)	人	目標		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	
			実績	1,000	1,000	1,000	1,000	1,100	-			
97	いきいきセミナーの開催	講座	目標		4	4	4	4	4	4	-	
			実績	4	4	4	4	4	-			
98	各種教室の開催回数	回	目標		170	170	170	170	170	170	↘	
			実績	161	129	123	118	116	57			
98	各種教室の延べ参加者数	人	目標		4,550	4,580	4,610	4,640	4,670	4,700	↘	
			実績	4,530	4,253	5,132	3,327	4,292	1,552			
100	地区公民館等の利用者数	人	目標		41,000	41,200	41,400	41,600	41,800	42,000	↘	
			実績	40,622	44,552	39,957	40,507	52,739	21,192			
102	生涯学習課ホームページ更新回数	回	目標		15	20	25	30	40	50	↗	
			実績	13	16	35	52	78	56			
103	読書ボランティア等登録者数	人	目標		100	100	100	100	100	100	↘	
			実績	76	86	93	93	93	52			
104	こどもよさこい参加者数	人	目標			100	100	100	100	100	-	
			実績			91	98	85	-			
105	社会体育施設の障害者用トイレの整備	箇所 (累)	目標		5	6	7	8	8	8	↘	
			実績	3	3	4	5	5	5			

④128の施策ごとの「成果と課題」

96	ライフステージに対応した学習の充実(家庭教育・学校教育・社会教育)	<p>豊かな心を持ったたくましい子どもを育成するため、体験活動や地域間交流を実施している。</p> <p>夏休み親子教室は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催していない。今後、新型コロナウイルス感染症の懸念が続くことを想定し、少数開催や、オンライン教室の手法などを考案する。</p> <p>また、世代間交流事業の風揚げ大会は中止となった。例年、就学前児童から小学生まで多くの子供と保護者の参加があり、屋外の交流の場として続けていきたい。屋外行事を行うことで少しでも多くの参加者を迎えられるよう改善する。</p>
97	生きがいを得る学習機会の充実	<p>市民の学習意識を高めるため、各種分野からテーマを選定した上で著名人を含めた4回の講演をセミナーとして開催する計画であったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室を中止した。著名人の講演は集客力があるものの、アンケートでは専門的分野の講師の方が評価が高い。今後もそのバランスを考慮したうえで講師を選考し周知していく。</p> <p>生涯学習人材バンクの登録者数は28名で、目標には大きく届いていない。制度認知が進んでおらず、個人においてもボランティア内容に合致するのかなどの不安などがあり、登録者が少ない状況である。依頼内容等の住民向けの広報活動(ボランティアの内容などを含め広報やHPでの周知)をはじめ、この制度や活動内容の周知を継続して実施していく。</p>

98 現代的課題に対応した学習機会の充実
子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員数の削減を行い実施した。より多くの方に参加してもらうように、ニーズを把握した上での内容・講師選定し、公民館ごとの連携、広報手段の見直しをする必要がある。加えて、感染症対策も常に更新し、安心して参加していただける環境づくりをしていく。
99 学習施設の整備
図書館の入館者数について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、一時休館となった。また、閲覧室の座席数の制限を行っている。感染状況の終息を見据えた再度の取り組みの強化と、一時的に中止されていたイベントや講座を早期に再開させ、入館者数の回復、増大を図る。10代、20代の利用者が限定的であるため、対象年齢層も考慮したお勧め図書の提案などとあわせ、各種イベントの周知方法や集客方法の改善を図る。他方では、今回の状況をふまえ、来館者数よりも実利用者数の拡大に注力した企画を実践して行く。 図書館の貸出冊数については、コロナ禍での影響を極力緩和させるために、可能貸出冊数を5冊から10冊に変更するなど対策を行った結果、実績の落ち込みを最小限にとどめることができた。野市、香我美両図書館の資料収集方針を明確化し、利用者にとって利用価値の高い蔵書構成に努めるとともに、休館日を減らし、利便性も高めることで貸出冊数増加につなげる。
100 地域に密着した学習の場の提供
公民館は地域のコミュニティ活動及び防災の拠点であり、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努めている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として施設の定員数を削減し実施した。地域により高齢化や実践行事で公民館の利用状況は異なるが、今後も各地区の公民館運営協議会やまちづくり協議会と連携していく。
101 生涯学習推進組織の整備
市が進めるまちづくり自治会や協議会は徐々に設立され、生涯学習の推進は図れているが、具体的な生涯学習推進組織の整備には至っていない。公民館活動とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせ、生涯学習推進組織の強化を図っていく。
102 情報提供・相談組織の整備
市広報、HP、市民館便り、まちづくり協議会便りなどを通じて事業・教室の周知を行った。また、生涯学習課のHPの更新についても、目標40回に対して、56回の更新を行った。図書新刊情報、各種教室、大会案内やスポーツ大会の結果などの情報を更新している。引き続き市民に分かりやすい内容で最新の情報を常に更新するよう取り組んでいく。
103 指導者の育成・人材活用
子どもの読書を推進するため、読書ボランティアの登録制度を実施している。読書ボランティア養成講座の休止や住居移転によるボランティア団体からの退会などで登録者数が減少している。読書ボランティア養成講座の講座内容の見直しを行い、幅広く人材を募集、登録者数アップにつなげて行く。 生涯学習人材バンクの登録者数は28名で、目標には大きく届いていない。制度認知が進んでおらず、個人においてもボランティア内容に合致するのかなどの不安などがあり、登録者が少ない状況である。依頼内容等の住民向けの広報活動(ボランティアの内容などを含め広報やHPでの周知)をはじめ、この制度や活動内容の周知を継続して実施していく。
104 生涯学習を通じての地域づくり
令和2年度は高知よさこい祭りやその他のイベント等が中止となっており、こどもよさこいの活動ができない状態であった。近年、参加者が減少しつつあるが、学校やPTAへの呼びかけをより一層行い参加者を増やしていく。スタッフについては、近年は市職員から各団体や保護者へ移行している状態である。今後は、役割分担を明確にし今以上のスタッフを確保したい。 夏休み親子教室は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催していない。今後、新型コロナウイルス感染症の懸念が続くことを想定し、少数開催や、オンライン教室の手法などを考案する。
105 全ての人と共生する生涯学習の推進
生涯学習施設のバリアフリー化に努めているが、目標には至らなかった。利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋便器化を図っていく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>C</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>イベントやセミナー、各種教室など各年代に応じた様々な学習機会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、人数の削減を行い目標を達成できなかった。また、生涯学習の人材バンクの登録者数も大きく目標を下回っている。引き続き周知を図り、人材バンクへの登録を促す。また、障害者用トイレの整備も昨年度と同様に目標には至っていない。 図書館の入館者及び貸出冊数については、目標値には至らなかったが、可能貸出冊数の変更等の対策に取組んでおり、今後も図書館利用者の回復、増大を図る。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	25. 文化の継承と振興

①施策の基本目標

<p>多様な芸術・文化活動の支援を行うとともに、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実します。 また、文化財センターを中心に市の歴史や文化財に触れる機会を充実します。</p>
--

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
106	市美術展覧会の入場者数	人	目標		1,300	1,350	1,400	1,400	1,400	1,500	↗	
			実績	1,264	1,304	1,249	1,169	1,089	1,451			
107	文化財ボランティアガイド登録者数	人 (累)	目標		42	42	8	10	10	10	→	
			実績	42	42	42	8	10	10			
107	小・中学校への出前講座の実施回数	回	目標		2	2	2	3	4	5	↘	
			実績	2	2	1	2	1	1			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
106	公民館自主事業(舞台・演奏公演)の実施回数	事業	目標		6	6	6	6	6	6	-	
			実績	6	6	6	6	7	-			
106	文化協会支援事業(文化祭・芸能大会等)	事業	目標		14	14	14	14	14	14	↘	
			実績	14	14	14	14	13	3			
107	文化財啓発事業の実施回数	回	目標		7	7	7	8	9	10	↘	
			実績	7	7	8	3	6	2			

④128の施策ごとの「成果と課題」

106 芸術・文化活動の推進	<p>文化関係団体との連携を図り、文化祭や美術展を開催し、芸術や文化の振興を図った。市美術展覧会は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施しながら、令和3年1月に前期・同2月に後期を開催し、入場者数は1,451人と目標を達成した。</p> <p>公民館自主事業(舞台・演奏講演)は、公民活動として日頃鑑賞できない舞台・演奏公演を企画し、文化意識向上を図る。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。子ども向けも含め、市民のニーズを把握し、より関心の高い内容を企画し実施していく。また、文化協会支援事業(文化祭・芸能大会等)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの文化祭が中止となり、3事業のみの実施となった。今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら大会実行委員会及び文化協会と連携して文化祭活動の取り組み、支援を行う。</p>
107 郷土の歴史・文化遺産の保存と継承	<p>文化財ボランティアガイドは計画策定時は42人であったが、「文化財ボランティア養成講座」受講生を指標とし、新たに設定を行っており、累計10人の目標値へ達している。国重要文化財安岡家住宅の一般公開が始まり、公開前に1~2回打ち合わせを行ってガイドの充実を図っている。今後もボランティアガイド募集を呼びかけ、実働できる人材を養成する。</p> <p>郷土の歴史文化遺産の継承を目的に、小・中学校への出前講座を実施しているが、令和2年度は1回の開催で目標値には至らなかった。戦争遺産などを解説し平和について考える講座を希望する小・中学校へ講師を派遣しているが、講師の確保等の状況により積極的な事業周知が行えない場合がある。</p> <p>文化財啓発事業については、新型コロナウイルス感染防止対策のため夏休み子ども文化財教室や文化財講座は実施できなかったため、開催回数が減少している。今後も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、香南市文化財に関し市民に向けての各種教室や講座を展開し、体験活動や周知啓発活動の取組を進める。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>市美術展覧会を開催し、入場者数は例年以上であり、目標を達成している。しかし、文化協会の支援事業や公民館自主事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったものもあり、目標には至っていない。</p> <p>また、郷土の歴史文化遺産の継承を目的に実施している小・中学校への出前講座も目標値には至っておらず、文化財啓発事業については新型コロナウイルス感染症の影響により予定通り実施できていないことから、例年より少ない実績となっている。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	26. 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

①施策の基本目標

多くの市民がスポーツに親しめるよう様々なジャンルのスポーツを推進し、子どもから高齢者まで各年代に応じた体力の増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会をめざします。
また、スポーツを通じた青少年の健全育成や、地域の人たちの交流を促進し、活力ある地域社会をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
108	市長杯等の参加者数	人	目標		500	520	550	570	800	800	↘	
			実績	480	501	490	769	873	729			
108	市民ウォーキング大会参加者数	人	目標		82	90	100	150	200	290	-	
			実績	80	82	49	163	72	-			
109	体育施設の障害者用トイレ設置数(学校開放施設含む)	箇所 (累)	目標		8	9	10	13	15	17	↘	
			実績	7	7	8	9	9	9			
110	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数	人 (累)	目標		66	66	66	68	75	78	↗	
			実績	64	71	73	79	81	84			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
108	スポーツ教室開催数(延)	回	目標		180	170	170	170	170	170	↗	
			実績	179	613	431	484	462	496			
109	ウォーキングコースの設定数	箇所	目標		6	10	10	10	10	10	→	
			実績	4	6	10	10	10	10			

④128の施策ごとの「成果と課題」

108 生涯スポーツ・競技スポーツの推進	<p>市長杯等の参加者数は729人であった。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となったことで前年度と比較して参加者数が減少している。運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので徹底周知し参加を促していく必要がある。</p> <p>高齢者でも気軽に行えるウォーキングを通し運動習慣を身につけてもらえるように、毎年開催されているウォーキング大会だが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止となった。健康対策課で各町2つの推奨コースマップが完成したことで、健康ウォーキング大会は毎年場所を変えながら実施していく。ツデーウォークは香南市民の参加が非常に少ないため、今後周知方法や参加料などの見直しを検討していく。</p> <p>こうなんスポーツクラブへ委託しているスポーツ教室は、毎年要望等を受け変更しており、令和2年度は延496回開催した。今後も市が力を入れるスポーツ、生涯活動に効果的な対象者を見極めるため、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を実施していく。また、スポーツ人口の拡大を図るため、軽スポーツを新たに取り入れる。</p>
109 スポーツ環境の充実	<p>生涯学習施設のバリアフリー化に努めているが、目標には至らなかった。利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋器化を図っていく。また、学校開放施設の整備が進んでいないため、各学校と、利用団体と調整を図り整備計画の見直しを図る。</p> <p>ウォーキングコースは生涯学習課と健康対策課が連携し、平成29年度から合計10コースを設定している。健康ウォーキング大会時に健康対策課が作成したコースマップを活用して、啓発を継続的に行っていく。</p>
110 スポーツ指導者の育成・人材活用	<p>スポーツ少年団認定指導員資格を新たに3名が取得し、延べ84人となった。各団体に2名以上のスポーツ少年団認定員が必要で、その確保とあわせ、団体数が多い団体へは更に手厚く指導できる体制を構築していくため、認定員の資格取得を促す必要がある。また指導者の高齢化も進んできており若者の取得を促す。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
A	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>各種教室や大会は、中止や参加者数が減少となっているが、スポーツ教室は目標を上回る実績となった。今後も市が力を入れるスポーツ、生涯活動に効果的な対象者を見極めるため、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を実施し、スポーツの推進を図る。</p> <p>スポーツ指導者の育成については、スポーツ少年団認定指導員資格を新たに3名が取得し、延べ84人となり目標以上となった。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	27. 災害に強いまちづくりの推進

①施策の基本目標

自然災害による被害を最小限にとどめるため、国や高知県に対し海岸や河川の適切な管理と整備の推進を求めるほか、避難高台の整備や急傾斜地の土砂災害防止対策、山間部の孤立対策を進めます。
また、地震に対する対策として、公共施設やライフラインの耐震化を進めるとともに、各家庭における対策の促進を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
111	避難タワーなどの高台整備箇所	基(累)	目標		13	18	18	19	21	23	↘	
			実績	12	13	17	18	19	20			
112	防災訓練(土砂災害)の実施	回	目標		未実施	初実施 ₁	1	1	1	1	→	
			実績	未実施	初実施 ₁	1	1	1	1			
113	住宅耐震改修件数【再掲】	棟	目標		110	110	120	120	60	60	↘	
			実績	100	70	89	68	57	52			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
111	津波避難路の整備箇所	箇所(累)	目標		16	18	19	20	21	24	→	
			実績	15	19	19	19	20	21			
112	国・県への河川整備要望行動【再掲】	回	目標		3	3	3	3	3	3	↗	
			実績	3	3	3	4	4	4			
113	住宅耐震診断件数【再掲】	件	目標		120	120	120	120	60	60	↘	
			実績	113	127	94	83	63	55			
113	家具転倒防止器具等購入費補助金申請件数	件	目標		50	50	50	50	30	30	↘	
			実績	13	61	27	14	11	6			

④128の施策ごとの「成果と課題」

111 津波・高潮の被害軽減対策	市民が津波から迅速・適確に避難できるよう、避難タワーや避難路の整備を進めている。「命を守る対策」の喫緊の課題として取り組んでいる津波避難タワーは、計画数23基の内、20基の整備が完了している。また、津波避難路の整備については、目標通り21路線を整備することができた。津波避難タワーと避難路の整備を併せ、津波避難が困難な地区の解消に向けた取組を加速していく。
112 水害・土砂災害予防対策	近年、集中豪雨(ゲリラ豪雨)による水害や、土砂災害も頻繁に発生するようになり、平成27年度までは未実施だった土砂災害の防災訓練を平成29年度から実施している。令和2年度も計画通り実施できた。今後、定期的な実施はもちろんのこと、水防資機材の備蓄強化にも努めていく。また、堤防の整備・かさ上げや強靱化、河床の浚渫などの河川整備の要望行動を国・県に継続的に行い目標3回に対し、4回行った。今後も継続して要望していく。
113 地振動に強いまちづくり	住宅耐震診断の費用を補助し、個人住宅の耐震化の促進を図った。木造住宅は自己負担3千円(診断調査手数料)で、非木造住宅は3万円を補助している。木造耐震診断は55件の利用があり、耐震関係事業ではある一定進んでいることから、各事業の申請件数は減少傾向にある。また、住宅耐震改修(工事)は52棟の利用があったが、耐震診断同様に目標値を下回っている。両制度の周知はもちろんのこと、耐震診断だけで終わらず耐震改修に繋げていくことと住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。あわせて、家庭での家具・棚家電の固定など、生活空間の揺れ対策として「家具転倒防止器具等購入費補助金」を支給しており、こちらは6件の実績があった。耐震診断および家具転倒防止については年々減少傾向にあり、制度の更なる周知が課題となっている。住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。
114 孤立化防止対策の推進	孤立化防止の施策について、孤立のおそれのある集落のう回路として連絡線形となる道路網の整備やヘリポートの整備、情報通信網などの整備に努める必要があるが、具体的な整備計画には至っていない。
115 ライフラインの安全対策の強化	災害時に、ライフライン(水道・下水道・電力・市営バス・民間のインフラ整備など)が寸断されることがないように、また、被害が生じても早急に復旧できるよう、安全対策を強化しないといけないが、具体的な整備計画には至っていない。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>家具転倒防止器具等購入費補助金申請件数は年々減少傾向にあり、目標には至っていない。住宅耐震改修件数や診断件数は達成していないが、新たに設定した目標に近い実績となっている。耐震関係事業ではある一定進んでいることから、各事業の申請件数は減少傾向にあるが、引き続き周知を行っていく。 また、防災訓練(土砂災害)の実施や津波避難路の整備は目標通りに実施できている。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	28. 地域防災力の育成

①施策の基本目標

近年発生した大震災や土砂災害、河川の氾濫など、災害の教訓をふまえ、広く防災知識の普及に努めるとともに、地域自主防災組織の設立促進と組織力の向上を図ります。
また、災害発生時の要配慮者対応を強化し、関係機関や地域との連携に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
116	地域防災計画の実践訓練	回	目標		未実施	未実施	1	0	1	1	↗	
			実績	未実施	初実施 2	2	2	3	2			
117	自主防災組織の結成率	% (累)	目標		91.0	94.0	97.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	89.2	89.0	90.6	89.7	89.5	91.9			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
116	職員に対する防災研修回数	回	目標		2	2	4	4	6	6	↗	
			実績	1	2	2	3	5	7			
116	児童・生徒に対する防災教育回数	回/校	目標		5	5	5	5	5	5	→	
			実績	5	5	5	5	5	5			
116	市民に対する防災研修回数	回	目標		未実施	未実施	2	2	3	3	↗	
			実績	未実施	20	25	25	35	9			
117	リーダー育成研修の参加組織数	組織	目標		35	41	47	53	54	55	↘	
			実績	13	7	10	18	15	2			
118	「避難行動要支援者名簿」の作成及び更新	-	目標		随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	→	
			実績	作成済	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新		
118	避難支援プラン(個別計画)作成件数	件 (累)	目標		2	20	50	80	80	80	↘	
			実績	着手	1	2	3	12	41			
118	園児の避難訓練実施回数	回/園	目標		12	12	12	12	12	12	→	
			実績	12	12	12	12	12	12			
118	児童・生徒の避難訓練実施回数	回/校	目標		3	3	3	3	3	3	→	
			実績	3	3	3	3	3	3			
119	社会福祉協議会との連絡会	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1	1			

④128の施策ごとの「成果と課題」

116 防災知識の普及	<p>香南市業務継続計画の実践訓練について、地域防災計画と一体化となった計画となり令和2年度は2回実施した。令和3年度以降も地域防災計画に基づき、実践訓練を実施予定である。</p> <p>児童・生徒に対する防災教育は予定通り実施し、職員に対する防災訓練については目標を上回る7回の実施となった。今後も、災害の教訓を踏まえた具体的で分かりやすい防災知識の教育を進めていく。</p> <p>市民に対する防災研修も開催当初から計画を上回る回数を実施しており、令和2年度は9回実施することができた。</p>
117 自主防災体制の整備	<p>個人と自主防災組織など市内の各種団体、事業所、行政が明確に役割分担しながら、日頃からの災害予防を進めることが重要である。</p> <p>その中でも、自主防災組織の育成は特に重要であり、令和2年度末の市内の自主防災組織の結成率は91.9%(13,929世帯(自主防加入世帯)/15,155世帯(全世帯数))と目標には至っていない。引き続き、結成率100%を目指して取り組んでいく。</p> <p>また、防災リーダーの育成も重要であることから、防災リーダー育成を目的とした研修会への参加を自主防災組織を中心に呼びかけているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により2組織からの参加のみになっている。今後も、研修会の参加案内やれんげいこうちでの取り組みを活用し、研修への参加機会を増やし啓発していく。</p>

118 災害時要配慮者の支援対策
<p>避難行動要支援者名簿の作成については、平成28年度末に地域福祉支援システムを導入し、作成済である。それ以降は随時更新できている。今後は名簿の運用についてプライバシーに細心の配慮を図りながら、市職員、消防団員、民生委員、自主防災組織員などとの連携強化に努める。</p> <p>また、その名簿一人ひとりの情報伝達、救助・避難誘導の方法を具体的に示した「個別避難支援プラン」は例年より増加し41件の作成状況である。令和2年度は令和元年度の取り組みを拡大し、赤岡地区をモデル地区として地域への周知や協力要請を行い、対象者への聞き取り訪問は市職員が行い29件を作成した。今後も支援対象者や地域の同意を得ながらプラン作成に取り組んでいく。</p> <p>園児・児童・生徒の避難訓練は予定通り実施できた。今後も地域の実情に合った訓練を計画し実施していく。</p>
119 ボランティアの環境整備
<p>災害時は、市社会福祉協議会が「香南市災害ボランティアセンター」を開設し、ボランティアコーディネーターとして、派遣要請やボランティアの受付、業務の割り振りなどを行うこととなる。それら活動が円滑に行われるよう、関係者で情報を共有するための連絡会を行った。今後も引き続き開催していく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>令和2年度より地域防災計画に基いた実践訓練を行っており、2回実施している。また、職員や市民に対する防災研修は目標以上の実績となった。</p> <p>自主防災組織の結成については、結成に向けた声掛けや説明は行っているが、目標達成には至っていない。引き続き、自治会の結成と連携して地域と協議を行う。また、すでに結成されている組織の活動や啓発も重要であり、それぞれの状況等を把握し、より活動が活性化するように努める。</p> <p>災害時要配慮者の支援対策として取り組まれている避難行動要支援者名簿の作成では、令和元年度の取り組みを拡大して取り組まれており、目標には至っていないが、例年より多い実績となっている。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	29. 防災体制の強化

①施策の基本目標

大規模災害の発生に対応するため、市民や職員が必要な活動を行える体制の整備、迅速かつ的確な消防体制・医療救護体制の整備、円滑で的確な救援物資の輸送体制の整備を進めます。
また、災害時の情報伝達を強化するため、多様な通信手段の確保に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
120	香南市総合防災訓練参加者数	人	目標		6,400	6,700	7,100	7,500	7,500	7,500	↘	
			実績	4,844	4,304	3,996	4,394	4,195	3,847			
121	防災行政無線(移動系)整備	-	目標		アナログ	アナログ	整備開始	整備中	整備中	デジタル化	→	
			実績	アナログ	アナログ	アナログ	実証実験中	整備中	整備中			
124	備蓄倉庫の整備 (浸水区域内)	棟 (累)	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1	1			
124	備蓄倉庫の整備 (浸水区域外)	棟 (累)	目標		1	2	2	3	3	3	↘	
			実績	0	0	1	1	1	1			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
120	防災協定の締結数	件	目標		96	100	104	108	110	110	↗	
			実績	92	96	104	105	113	122			
121	香南市配信メールの登録者数	人 (累)	目標		1,300	1,400	1,500	1,700	1,900	2,100	↘	
			実績	1,256	1,176	1,132	1,195	1,261	1,306			
122	火災予防の啓発回数	回	目標		120	120	120	120	220	250	↘	
			実績	116	102	120	120	200	218			
122	消防水利の耐震箇所数	箇所	目標		25	26	28	28	29	29	→	
			実績	23	25	26	28	28	29			
123	医療救護訓練の実施	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1	1			

④128の施策ごとの「成果と課題」

120 応急活動体制の整備	<p>県下一斉の避難訓練に合わせ、香南市総合防災訓練を11月8日に実施した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、メイン会場での防災訓練を中止とし、避難訓練のみの実施となり、参加者数は3,847人であった。 いざというときに的確で迅速な判断に基づき行動することは困難であり、訓練を通して状況に応じた判断力や行動力を養っていくことが重要となるので、ひとりでも多くの市民に防災訓練へ参加してもらえるよう引き続き取り組んでいく。 防災協定の締結数については、目標値を上回っている。引き続き災害時に備え他の行政機関や医療関係機関、民間事業者と災害時応援協定を締結し、災害時の連携体制や役割を決め、平常時においてもその協定を活用した事業、訓練等を実施する。</p>
121 情報通信システムの強化	<p>防災情報通信管理システムを構築する中で、防災行政無線(移動系)の整備を進めており、令和2年度は令和3年度のデジタル化に向け整備中であり、進捗状況は予定通りである。 携帯電話・スマートフォンは、災害時の情報通信手段として大きな役割が期待される。本市では、携帯電話会社と連携しながら、緊急地震速報などの気象情報や地域の災害情報を即時配信する「香南市配信メール」を実施しており、広報や小中学校を通じて利用促進を図っている。登録者数は1,306人と目標には至っていない。今後も登録者数の増加に向けて、継続して取り組んでいく。</p>
122 火災予防対策の推進	<p>消防本部では、市内の事業所や学校等で開催されている避難・通報・消火訓練等に立ち会い、また、各事業所及び危険物施設へ立入査察を実施し、必要に応じて助言や指導を行っている。今後も、訓練及び立入査察等を行い、火災の予防に努める。 消防水利の耐震化については、29箇所で開催されており、概ね目標どおりである。また市内には、約900強の消火栓と約200の防火水槽があるが、耐震性が充分でない防火水槽もあり、災害時には利用できなくなる恐れもあるので、順次耐震化に努めていく。</p>
123 災害時医療救護体制の整備	<p>災害発生時には、72時間以内に災害時医療救護体制を立ち上げる必要がある。 令和2年度は、職員間での体制や流れの確認も併せた医療救護訓練を机上訓練にて実施した。災害時に必要となる通信機器の訓練も併せて行い、救護所の体制づくりを進めている。今後も訓練の継続実施に努め、医師会や他機関と連携を図る。</p>

124 緊急輸送体制の整備

災害時には、大量の応援物資を保管・仕分けする拠点が必要であり、津波や水害による避難も想定しながら、整備する必要がある。
 すでに、浸水区域内には1箇所(吉川町)に整備を行っており、今後は備蓄品の整備に努めていく。また、平成29年度には浸水区域外(こうなん学校給食センター隣)に1箇所の整備を行ったが、新たな整備には至っていない。引き続き、浸水区域外での整備を進めるとともに、地域物資拠点の確保と機能充実に努める。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない	香南市総合防災訓練への参加者は目標に至っていない。しかし防災協定の締結数については、目標値を上回っており、応急活動体制の整備が進められている。 備蓄倉庫については、新たな整備には至っていないが、耐震性防火水槽、情報伝達の整備などは順調に整備できている。また、火災予防の啓発も目標に近い回数実施でき、防災体制の強化は図れている。

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	30. 市民生活の確保

①施策の基本目標

<p>南海トラフ地震など、大規模災害時の避難対策として、避難所の整理と運営体制の確立を進めます。 また、避難生活に必要な備蓄品については、公的備蓄の早期整備と個人備蓄の啓発に努めます。 廃棄物の処理については、集積場所の確保や、民間処理事業者との協力体制の確立を進めます。</p>
--

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
125	避難所運営マニュアル作成	箇所 (累)	目標	/	1	7	13	19	25	25	→	
			実績	0	2	11	17	22	25			
126	食料・生活必需品の備蓄率 (L2想定避難者12,000人分)	% (累)	目標	/	58.0	72.0	83.0	85.0	93.0	100.0	→	
			実績	61.0	70.0	83.3	86.0	89.0	93.0			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
125	避難タワーなどの高台整備箇所【再掲】	基 (累)	目標	/	13	18	18	19	21	23	↘	
			実績	12	13	17	18	19	20			
125	津波避難路の整備箇所【再掲】	箇所 (累)	目標	/	16	18	19	20	21	24	→	
			実績	15	19	19	19	20	21			
127	中央東福祉保健所との連携協議回数	回	目標	/	1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1	1			
128	応急期機能配置計画の策定	-	目標	/	準備	策定					-	
			実績	未策定	策定	策定						
128	災害廃棄物処理計画の策定	-	目標	/	未策定	策定					-	
			実績	未策定	未策定	策定						

④128の施策ごとの「成果と課題」

<p>125 避難対策の推進</p> <p>災害が起こってから避難所について考えている、円滑に開設や運営を行うことは困難であり、避難所マニュアルの作成は避難所を安定的に運営するために大変重要である。令和2年度は佐古小学校をはじめ、3避難所の避難所マニュアルを作成し、全25箇所(浸水区域外指定避難所)が完成した。今後も、マニュアルを活用した訓練の実施と継続的な見直しを行っていく必要がある。 市民が津波から迅速・適確に避難できるよう、避難タワーや避難路の整備を進めている。「命を守る対策」の喫緊の課題として取り組んでいる津波避難タワーは、計画数23基の内、20基の整備が完了した。また、津波避難路の整備については、目標通り21路線の整備を整備することができた。津波避難タワーと避難路の整備を併せ、津波避難が困難な地区の解消に向けた取組を加速していく。</p>
<p>126 食料・飲料水・生活必需品の確保</p> <p>「最大クラスの地震・津波」(L2)を想定し、12,000人の避難者の食料・生活必需品の備蓄に努めている。 令和2年度の備蓄率は93.0%と目標を達成した。今後も計画的に非常食・飲料水・毛布・生理用品・おむつ・仮設トイレなどの備蓄を進めていく。</p>
<p>127 保健衛生・防疫体制の確保</p> <p>伝染病や食中毒等の発生予防と発生後に速やかに対応するためには、中央東福祉保健所との連携が重要であり、1回ではあるが令和2年度も連携協議の場を持つことができた。今後も、継続して協議の場を持ち、体制づくりを行なっていく。</p>
<p>128 ごみ・がれき、し尿の処理体制の確保</p> <p>平成28年度に、地震発生時から応急期にかけて必要となる用地や施設などの機能配置を定めるための応急期機能配置計画の策定を行った。計画は、南海トラフ地震発災後、住民の命を守り、助かった命をつなぐため、救助・救出や応急対応活動等の体制を早期に確立することを目的とし、災害発生時に必要となる各機能をどのように配置するの検討を行ったもので、今後は、その計画に基づき、施設の整備等に努めていく必要がある。 また、平成29年度には、災害廃棄物に関する基本的な考え方、処理方法や処理手順などを定めた、災害廃棄物処理計画の策定を行った。令和2年度は、災害廃棄物発生量の修正と他項目の見直しのため改定を行った。今後も、災害廃棄物処理計画の随時改訂や計画どおり処理を行える体制づくりと組織強化を図っていく必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>避難所運営マニュアルは予定どおり作成できており、全25箇所が完成した。 市民生活の確保に必要な不可欠である、食料・生活必需品の備蓄率も目標どおりであり、今後も計画的に非常食・飲料水・毛布・生理用品・おむつ・仮設トイレなどの備蓄を進めていく。</p>